田能遺跡群発掘調査概要・Ⅲ

- 農地還元利活用事業「樫田地区」に伴う発掘調査-

2002年3月

大阪府教育委員会



はしがき

田能遺跡群の所在する高槻市大字田能は、北摂山地の東北部の山々に囲まれた山間小盆地(田能盆地)に位置し、大阪府では極めて希少な山と緑に囲まれた地域であります。

今回の発掘調査は、農地還元利活用事業(樫田地区)に先立って、平成12年度から平成13年度にわたって実施したものです。当該地区の発掘調査は、平成11年度に当該予定地内の遺跡確認調査および早期着手地区の発掘調査を実施し、今年度で3年目を迎えています。

田能盆地は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての文献が残存し、また北西の山腹に戦国時代の部将である明智光秀が築城したと伝えられる山城の田能城跡など、歴史的には著名な地域でありました。しかし、埋蔵文化財については、以前に高槻市教育委員会による遺跡分布調査が行われ、田能北遺跡、田能南遺跡が発見された以外は、実態が不明な地域でありました。しかし、これまで3年間の発掘調査によって徐々にではありますが、田能盆地内の遺跡の状況が明らかになってきました。

前回の調査までは、文献や検出した遺構により平安時代末期から鎌倉時代初期を中心として、人々がこの地に定住し始めたと考えられていました。しかし平成14年度の調査によって、鎌倉時代の遺構に加え、平安時代初期や平安時代後期の建物を検出したことから、その時代には生活が営まれていたことが初めて確認され、大きな成果を挙げることが出来ました。

最後になりましたが、発掘調査にあたってご協力いただきました高槻市教育委員会、樫田地区土地改良区、地元自治会各位をはじめとする多くの関係者の方々に厚く感謝いたしますとともに、今後とも文化財保護行政について変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成14年3月

大阪府教育委員会 文化財保護課長 小林 栄

- 1. 本書は、大阪府教育委員会が、大阪府環境農林水産部の依頼を受け、農地還元利活用事業(樫田地区)に先立って実施した、高槻市大字田能所在、田能遺跡群発掘調査概要・Ⅲである。
- 2. 現地調査は、平成12年度および平成13年度にわたって実施し、田能南遺跡を平成12年9月から平成13年3月、田能北遺跡を平成13年7月から同年12月に文化財保護課調査第1グループ技師奥和之が担当した。それに伴う整理作業は、各年度毎に調査管理グループが平行して行い、平成14年3月に全ての作業を終了した。
- 3. 調査の実施にあたっては、高槻市教育委員会、大阪府環境農林水産部、大阪府北部農と緑の総合事務所、樫田地区土地改良区、地元自治会をはじめとする諸機関および下記の方々にご指導、ご教授を賜った。

橋本久和 (高槻市教育委員会)、重金 誠 (能勢町教育委員会)

- 4. 本調査の写真測量は、平成12・13年度を共に株式会社サンヨーに委託し、撮影フィルムについても同社で保管している。
- 5. 本書の執筆・編集は、奥が担当した。

凡

- 1. 座標、方位については国土座標、標高については東京湾平均海水面(T. P.)を基準とした。
- 2. 遺構の色調については、小山正忠・竹原秀雄 「新版標準土色帳」 日本色彩研究所1992を使用した。
- 3. 遺物は、挿図、図版および遺物観察表の番号と一致させた。

目 次

はしカ	き						
例言							
目次							
第1章	テールじめに	·					1
							_
第2章	出能南道						3
第1	節 概要			• • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • •		3
第 2	節 A地区	区の調査	• • • • • • • • • •	• • • • • • • • • •	• • • • • • • • • •		3
第 3	節 B地▷	区の調査	• • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • •		7
第 4	節 С地▷	区の調査	•••••	•••••	•••••	•••••	12
第 5	。 節 D地▷	医の調査	•••••			•••••	13
第 6	節 E地▷	医の調査	• • • • • • • • • •		•••••		
第 7							21
第3章							25
第4章							33
							35
報音書	計少球	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	••••••	•••••	**********	•••••	44
			揺	াত্যা	Ħ	\h.	
			挿	义	目	次	
			挿	义	目	次	
第1図	大阪府と調?	-	••	, —-	 	, •	D 地区基本層序図 ·······]4
第1図 第2図		£地点····································		1	第16図	田能南遺跡	D地区基本層序図 ············ 14 D地区建物 1 平面·断面図 ··· 15
				······ 1 ······ 2	第16図	田能南遺跡	D地区基本層序図 14D地区建物 1 平面・断面図 … 15D地区建物 2 平面・断面図 … 16
第2図	周辺の遺跡と	と既往の調査区		········ 1 ······· 2 ······· 3	第16図 第17図	田能南遺跡田能南遺跡	D地区建物1平面・断面図 … 15
第2図 第3図	周辺の遺跡 と 田能南遺跡	: 既往の調査区 A地区基本層序図		······· 1 ······· 2 ······ 3 ······ 4	第16図 第17図 第18図	田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	D地区建物1平面・断面図 … 15D地区建物2平面・断面図 … 16
第2図 第3図 第4図	周辺の遺跡 と 田能南遺跡 田能南遺跡	既往の調査区 A地区基本層序図 A・B地区平面図	断面図…		第16図 第17図 第18図 第19図	田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	D地区建物1平面・断面図 … 15 D地区建物2平面・断面図 … 16 D地区建物3平面・断面図 … 16
第2図 第3図 第4図 第5図	周辺の遺跡 と 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	既往の調査区 A地区基本層序図 A・B地区平面図 A地区溝1平面・	断面図…		第16図 第17図 第18図 第19図 第20図	田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	D地区建物 1 平面・断面図 … 15 D地区建物 2 平面・断面図 … 16 D地区建物 3 平面・断面図 … 16 D地区炉跡平面・断面図 … 17
第2図 第3図 第4図 第5図 第6図	周辺の遺跡と 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	既往の調査区 A地区基本層序図 A・B地区平面図 A地区溝1平面・ A地区出土遺物… B地区基本層序図	断面図…		第16図 第17図 第18図 第19図 第20図 第21図	田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	D地区建物 1 平面・断面図 … 15 D地区建物 2 平面・断面図 … 16 D地区建物 3 平面・断面図 … 16 D地区炉跡平面・断面図 … 17 D地区建物 4 平面・断面図 … 17 D地区遺構出土遺物 … 17
第2図 第3図 第4図 第5図 第6図 第7図	周辺の遺跡と 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	既往の調査区・・・・・ A地区基本層序図 A・B地区平面図 A地区溝1平面・・ A地区出土遺物・・・ B地区基本層序図 落込み1出土遺物	断面図		第16図 第17図 第18図 第19図 第20図 第21図 第22図	田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	D地区建物1平面・断面図 … 15 D地区建物2平面・断面図 … 16 D地区建物3平面・断面図 … 16 D地区炉跡平面・断面図 … 17 D地区建物4平面・断面図 … 17 D地区建物4平面・断面図 … 17 D地区遺構出土遺物 17 D地区土坑1平面・断面図 … 18
第2図 第3図 第4図 第5図 第6図 第7図 第8図 第8図	周辺の遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	既往の調査区 A地区基本層序図 A・B地区平面図 A地区溝1平面・ A地区出土遺物… B地区基本層序図 落込み1出土遺物 落込み1出土遺物	断面図···· 1 状況······		第16図 第17図 第18図 第19図 第20図 第21図 第23図 第23図 第24図	田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺遺跡 田能南遺遺跡 田能南遺遺跡 田能南遺遺遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	D地区建物1平面・断面図 ・・・15 D地区建物2平面・断面図 ・・・16 D地区建物3平面・断面図 ・・・17 D地区炉跡平面・断面図 ・・・17 D地区建物4平面・断面図 ・・・17 D地区建株出土遺物 ・・・・17 D地区土坑1平面・断面図 ・・・18 D地区出土遺物 ・・・・18
第2図 第3図 第4図 第5図 第6図 第7図 第8図	周辺の遺跡を 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	既往の調査区・・・・・ A地区基本層序図 A・B地区平面図 A地区溝1平面・・ A地区出土遺物・・・ B地区基本層序図 落込み1出土遺物	断面図····· 1 状況······· 2		第16図 第17図 第18図 第19図 第20図 第21図 第22図 第23図	田能南遺遺跡跡 田能南遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺間 田能南南南遺遺間田能和能田能田能	D地区建物 1 平面・断面図 … 15 D地区建物 2 平面・断面図 … 16 D地区建物 3 平面・断面図 … 16 D地区炉跡平面・断面図 … 17 D地区建物 4 平面・断面図 … 17 D地区遺構出土遺物 … 17 D地区土坑 1 平面・断面図 … 18 D地区出土遺物 … 18 E地区基本層序図 … 19
第2図 第3図 第4図 第5図 第6図 第7図 第8図 第9図 第10図	周辺の遺跡 田能南遺跡 田能南南遺跡 田能南南遺跡 田能南南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡 田能南遺跡	既往の調査区・・・・・ A地区基本層序図 A・B地区平面図 A地区溝1平面・・ A地区出土遺物・・・ B地区基本層序図 落込み1出土遺物 落込み1出土遺物 B地区出土遺物 B地区出土遺物	断面図···· 1 ········ 状況······ 2 ······		第16図 第17図 第18図 第20図 第21図 第22図 第23図 第24図 第24図 第25図	田能南遺跡跡 田能南遺遺跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡	D地区建物 1 平面・断面図 ・・・ 15 D地区建物 2 平面・断面図 ・・・ 16 D地区建物 3 平面・断面図 ・・・ 16 D地区炉跡平面・断面図 ・・・ 17 D地区建物 4 平面・断面図 ・・・ 17 D地区遺構出土遺物 ・・・・ 18 D地区土坑 1 平面・断面図 ・・・ 18 D地区出土遺物 ・・・ 18 E地区基本層序図 ・・・ 19 E地区出土遺物 ・・・ 19
第 2 図 第 3 図 第 4 図 第 5 図 第 7 図 第 8 図 第 10図 第 11図 第 11図	周辺の遺跡 とここ 日間 田能南南 遺遺跡 田能南南 遺遺跡 田能南南 南南 東京 遺遺 遺遺 遺 遺 遺 遺 遺 遺 跡 跡 田能南 東京 遺跡 跡 いっこう ロール・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・	既往の調査区・・・・・ A地区基本層序図 A・B地区平面図 A地区溝1平面・・ A地区出土遺物・・・ B地区基本層序図 落込み1出土遺物 落込み1出土遺物 B地区出土遺物 B地区出土遺物 C地区平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	断面図 1 状況 2	1	第16図 第17図 第18図 第19図 第20図 第22図 第23図 第24図 第25図 第26図 第27図	田能用的工程的工程的工程的工程的工程的工程的工程的工程的工程的工程的工程的工程的工程的	D地区建物 1 平面・断面図 ・・・ 15 D地区建物 2 平面・断面図 ・・・ 16 D地区建物 3 平面・断面図 ・・・ 16 D地区建物 3 平面・断面図 ・・・ 17 D地区建物 4 平面・断面図 ・・・ 17 D地区建構出土遺物 ・・・ 17 D地区土坑 1 平面・断面図 ・・・ 18 D地区出土遺物 ・・・ 18 E地区基本層序図 ・・・ 19 E地区出土遺物 ・・・ 19 E地区平面図 ・・・ 20
第2図 第3図 第4図 第5図 第6図 第7図 第8図 第9図 第10図 第11図	周田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	既往の調査区・・・・・ A地区基本層序図 A・B地区平面図 A地区溝1平面・・ A地区出土遺物・・・ B地区基本層序図 落込み1出土遺物 落込み1出土遺物 B地区出土遺物 B地区出土遺物	新面図···· 1 ······· 状況······ 2 ······		第16図 第17図 第18図 第20図 第21図 第22図 第23図 第24図 第25図 第26図	田能南遺跡跡 田能南遺遺跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡	D地区建物 1 平面・断面図 ・・・ 15 D地区建物 2 平面・断面図 ・・・ 16 D地区建物 3 平面・断面図 ・・・ 16 D地区炉跡平面・断面図 ・・・ 17 D地区建物 4 平面・断面図 ・・・ 17 D地区遺構出土遺物 ・・・・ 18 D地区土坑 1 平面・断面図 ・・・ 18 D地区出土遺物 ・・・ 18 E地区基本層序図 ・・・ 19 E地区出土遺物 ・・・ 19

第39図 田能北遺跡 C地区出土遺物 29 第40図 田能北遺跡 E地区建物1平面・断面図 30 第41図 田能北遺跡 E・H地区出土遺物 31 第42図 田能北遺跡 I地区建物2平面・断面図 32 第43図 田能北遺跡 I地区建物3平面・断面図 32 第44図 田能北遺跡 I地区出土遺物 32 第45図 田能地区中世土地利用想定図 34
次
表 6 出土遺物観察表 5
目 次
図版7 田能北遺跡 1. 全景(南東より) 2. B・C・D・I地区全景(東より) 3. C地区基本断面 4. E地区基本断面 5. I地区基本断面 図版8 田能北遺跡 1. C地区全景(南より) 2. C地区建物群(北より) 3. C地区建物群(南西より)
図版 9 田能北遺跡 1. E地区建物 1 (南より) 2. 建物 1 SP10 3. 建物 1 SP25 4. 建物 1 SP68 5. 建物 1 SP92 6. SP20遺物出土状況 7. SP93遺物出土状況 8. I地区全景(南より) 図版10 田能北遺跡 1. 建物 3 (北東より) 2. 建物 3 SP54 3. 建物 3 SP62 4. 建物 3 SP69 5. 建物 2 (東より) 6. 建物 2 SP26 7. 建物 2 SP32 8. 建物 2 SP87 図版11 出土遺物 図版12 出土遺物 図版13 出土遺物

F地区全景(南より)
 土坑2・3 (南より)
 F地区基本断面(1)
 F地区基本断面(4)

第1章 はじめに

田能南遺跡および田能北遺跡(第1図、図版表紙)は高 槻市大字田能地区に所在し、高槻市の北部、市街区域から 約12km離れた大阪府の北東部、北摂山地の穏やかな山々に 囲まれた標高350m前後の東西約0.3km、南北約1kmを測る 小規模な山間盆地(田能盆地)に立地する。当該地区は、北 と西を亀岡市、東を京都市と接しており、大阪府の地形で いえば、北に瘤状に飛び出した形状をなしている。

今回の発掘調査の経緯となった大阪府営農地還元利活 用事業(樫田地区)は、山間盆地の比較的傾斜のきつく狭 小不整形で統一性のない耕地を、府内の公共事業などに よって生じた残土を利用し埋め立て、広い水田に整備し、 農作業の効率化を図ろうとする事業である。



第1図 大阪府と調査地点

これに伴う発掘調査は、平成11年度に実施した遺跡確認

調査をかわきりに、これまで神宮寺西遺跡(平成11年度)、田能城跡(平成11年度)、田能北遺跡 A地区(平成12年度)の調査を3年間継続して実施している。今回の調査は、平成11年度に実施した田能盆地内の遺跡確認調査の結果に基づき、本府教育委員会と本府環境農林水産部と協議を 行い、基本的に盛土によって遺跡の保存を図るが、切り土により遺跡が破壊される地域に限定して発掘調査を行うこととなった。

調査は、平成12年度に田能南遺跡、平成13年度に田能北遺跡($B \sim I$ 地区)について実施した。 田能南遺跡(面積2211 m^2)については、平成12年9月に調査を開始し、平成13年3月をもって 終了した。

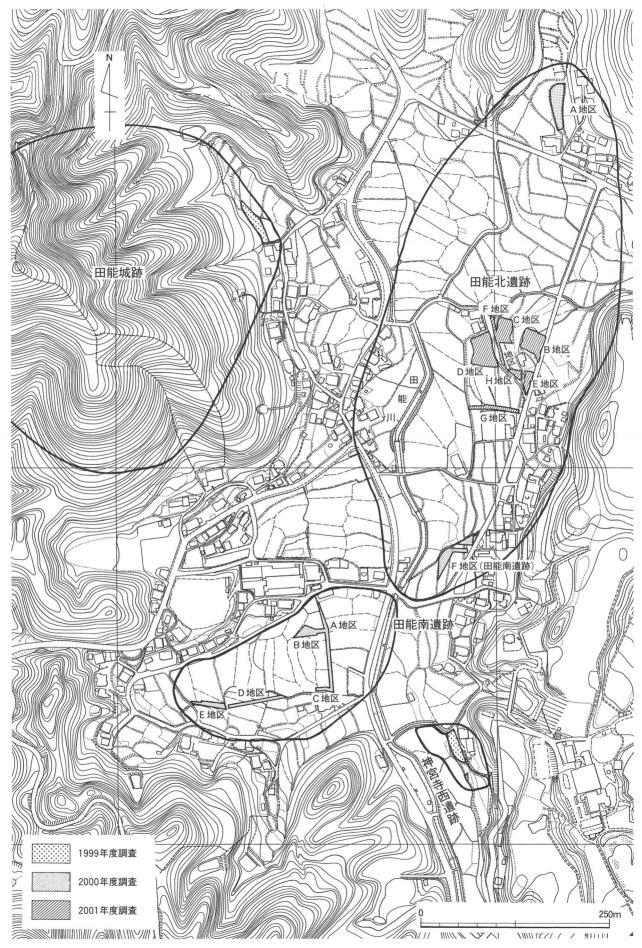
田能北遺跡(面積2950m²)については、平成13年6月に調査を開始し、同年12月をもって終了した。

調査の方法は、基本的に耕作土層および床土層をバックホウによって、厚さ約0.3m除去した後、 人力により厚さ0.3mから0.35mの遺物包含層を地山まで掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

なお、当該地区における位置と環境については、『田能遺跡群発掘調査概要・Ⅱ』を参照されたい。

註≫

- 1) 大阪府教育委員会 『田能地区遺跡確認調査概要』 2000
- 2) 大阪府教育委員会 『田能遺跡群発掘調査概要・Ⅱ』 2001



第2図 周辺の遺跡と既往の調査区

第2章 田能南遺跡の調査

第1節 概要 (第2図)

田能南遺跡は、田能盆地の南側に広がる遺跡で、遺跡の大半は田能川の西に存在する谷の縁辺部から中央にかけて存在し、平成11年度の遺跡確認調査で一部は、田能川の東側の丘陵縁辺部にも広がることが判明した。遺跡の規模は、東西長約400m、南北幅約150mを測る。

今回の発掘調査対象地域の大半は、農業用水路予定地を中心とし、周知の遺跡の範囲内をほぼ 「L」字状に巡る形状を示している。

調査面積は約2211㎡ を測る。検出した遺構は、建物4棟、土坑3基、建築部材の集積場1ヶ所、 溝、自然流路などである。

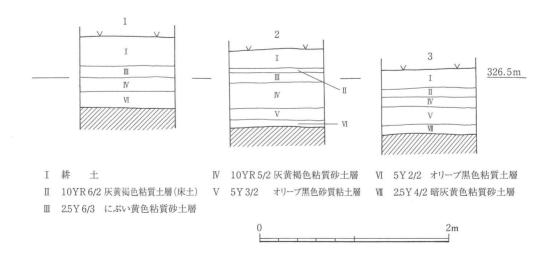
第2節 A地区の調査

1. 調査の概要 (第4図、図版1-1)

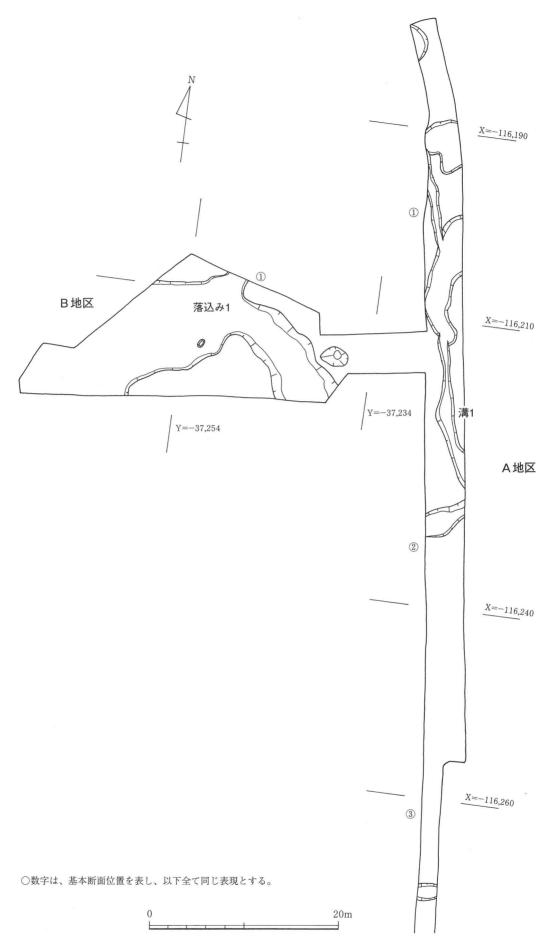
A地区は、盆地谷部の開口部付近に位置するX = -116,187、Y = -37,234付近からX = -116,275、Y = -37,220付近までの基本的に幅約5 m、長さ約100mを測り、北側の丘陵縁辺部と南側の丘陵縁辺部とを結ぶ南北に長い調査区である。検出した遺構は、中世と推定される溝1 本、他に時期不明の自然流路などである。

2. 基本層序 (第3図、図版1-3)

層序は、地表面に現水田の高低差が存在するものの、基本的に同様な堆積状況を示す。耕作および床土以下は、3層から4層に分けることが出来る。ほぼ水平に堆積し、耕作によるものと考えられる攪拌を受けていることから、水田であった可能性が高い。各層からの出土遺物は、最下層のオリーブ黒色粘質土層まで、中世の遺物が含まれていることから、中世以降水田化されていた可能性が高い。



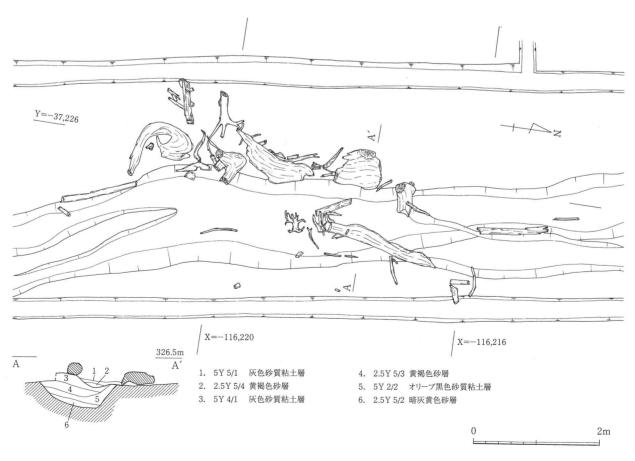
第3図 田能南遺跡 A地区基本層序図



第4図 田能南遺跡 A・B地区平面図

以下各層の概要を記述する。

- I層 耕土層で層厚は、約0.2mを測る。
- **II層** 耕土層の床土で、基本的に1層であるが、部分的に2層から3層に分けることが出来る。 また、部分的に調査区が低湿地に属しており、床土が形成されていない地点もある。
- **Ⅲ層** にぶい黄色粘質砂土層を基本とする層で、調査区中央から北側に存在する。層厚は、0.1 m前後を測る。
- **№層** 灰黄褐色粘質砂土層を基本とする層で、調査区全域に広がる。層厚は、0.1mから0.3mを測る。
- **V層** オリーブ黒色砂質粘土層を基本とする層で、調査区中央から南側に存在する。層厚は、0.1m前後を測る。
- **M層** オリーブ黒色粘質土層を基本とする層で、調査区全域に広がる。層厚は、0.1m前後を測る。
- **VII層** 暗灰黄色粘質砂土層を基本とする層で、調査区南側に広がる。層厚は、0.1m前後を測る。 3. 調査の成果
- **溝1** (第5図) X = -116,188、Y = -37,231付近からX = -116,227、Y = -37,224付近で検出した基本的に北から南に走る溝である。上面の耕土面にはほぼ同様な方向に走る水田の用水路として使用されている溝が存在する。溝は、若干位置が異なるが、地山面で2回の掘り直しが認



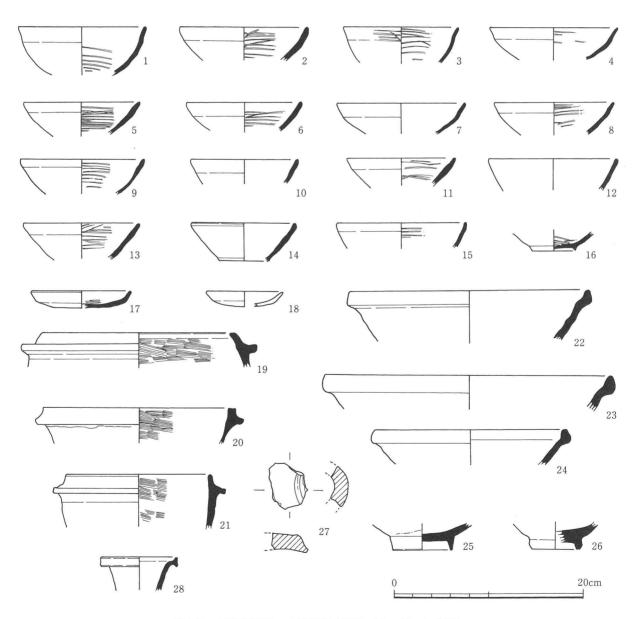
第5図 田能南遺跡 A地区溝1平面・断面図

められる。X=-116,215、Y=-37,226付近からX=-116,221、Y=-37,226付近の間は、溝の両肩に木材(木切れ)や杭などにより、肩を補強している。これらは、土層観察および平面観察によると新しい溝に属する。溝内には、砂層が全面に堆積していることから常時水が流れていたものと考えられる。溝は、上面が地山面から幅約0.5m、深さ約0.3m、下面が地山面より幅1.0mから1.3m、深さ約0.5mを測る。溝内からの遺物は少量の破片で、図化は出来なかったが、瓦器、土師器片が出土したため、中世と推定される。

4. 出土遺物 (第6回、図版11)

調査区の各層から出土した遺物は、12世紀から13世紀中頃にかけてのものと推定される瓦器椀を中心として土師皿、土師器羽釜、青磁碗、白磁碗などがある。

これらの時期の出土遺物として、フイゴの羽口(27)がある。また、これらの時期を溯るものとして平安時代前期の須恵器壷の口縁部(28)がある。



第6回 田能南遺跡 A地区出土遺物 (1~28 包含層)

第3節 B地区の調査

1. 調査の概要 (第4図、図版1-2・2-3)

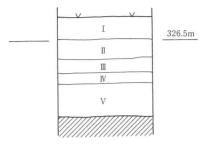
B地区は、A地区のX=-116,215、Y=-37,228付近から西に延びる調査区である。調査区は、谷の開口部付近に位置することから、特にこの周辺が軟弱地盤であったため、地山から上層の地盤改良を行うこととなり、用水路用地の他に調査区の一部を拡張したため、歪な形をなしている。東西長約5 m、南北幅約5 mから最大幅15mを測る。

検出した遺構は、主に自然の落込み内上層から出土した 建築部材の集積場と推定される遺構である。それ以外には、 調査区内のほぼ全域にわたって辺に切り株、木の根などを 多数検出した。

2. 基本層序 (第7回、図版1-4)

層序は、地山面から上層が水田であった可能性が高い堆積状況および土質、色調を呈している。各層からの出土遺物は、最下層の灰黄褐色粘質土層まで、中世の遺物が含まれていることから、中世以降水田であった可能性が高い。

以下各層の概要を記述する。



T 耕 +

Ⅱ 2.5Y 6/2 灰黄色粘質土層

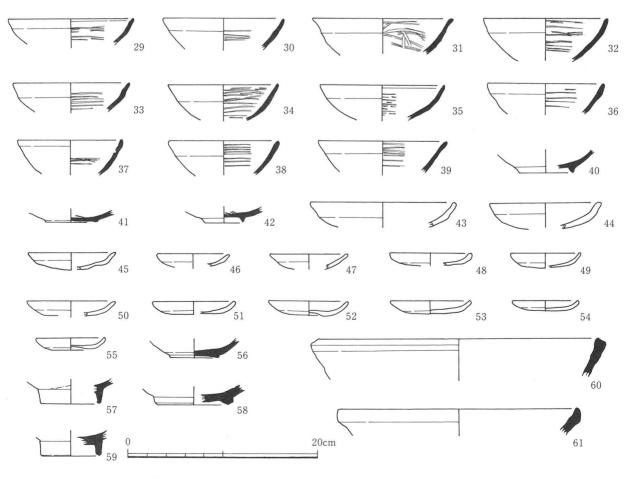
Ⅱ 5Y 5/1 灰色粘質土層

IV 2.5Y 4/2 暗灰黄色粘質土層

V 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土層(有機物含む)



第7図 田能南遺跡 B地区基本層序図



第8図 田能南遺跡 落込み1出土遺跡1 (29~61 落込み1)



第9図 田能南遺跡 落込み1遺物出土状況



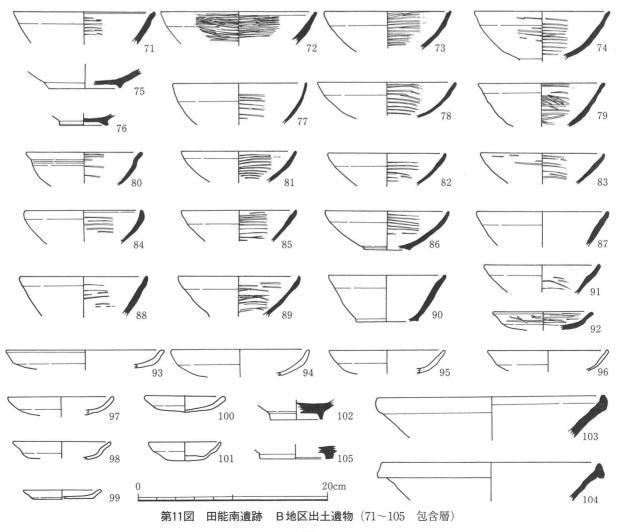
第10図 田能南遺跡 落込み 1 出土遺物 2 $(62{\sim}70$ 落込み 1)

- I層 耕土層で層厚は、約0.2mを測る。
- **Ⅱ層** 灰黄色粘質土層を基本とする層で、層厚は、0.2m前後を測る。
- **Ⅲ層** 灰色粘質土層を基本とする層で、層厚は、0.1m前後を測る。
- №層 暗灰黄色粘質土層を基本とする層で、層厚は、0.1mから0.3mを測る。
- **V層** 灰黄褐色粘質土層を基本とする層で、落込み1などの遺構が存在する時期の遺物包含層である。層厚は、0.1m前後を測る。

3. 調査の成果

落込み1(第9図、図版2-1・2) X=-116,233、Y=-37,269付近からX=-116,220、 Y=-37,241付近にかけて検出した溝状の落込みである。両端は、調査区外に延びる。調査当初は、溝状に延びることから自然流路と思われたが、A調査区で対応する遺構が検出されなかったので落込みと判断した。落込みは、幅6 mから10mを測り、X=-116,213、Y=-37,246付近までは、深さ約0.1mと緩やかな底部をなしていたが、そこから南は徐々に深くなり、最深部で約0.5mを測る。落込み内の堆積状況は、上層の灰黄褐色粘質土層までは、遺物が混入しているが、それ以下の層には、有機物、砂が堆積し、遺物の存在は全く認められなかった。

上層の灰黄褐色粘質土層から出土した遺物のほとんどは、建築材に使用する以前の木材と推定



されるものであり、その間に瓦器椀、土師器皿、青磁碗、白磁碗、須恵器擂鉢などの土器(第8 図、図版11)が混入している。

材木は、落込み上層の灰黄褐色粘質土層中のX=-116,214、Y=-37,246付近からX=-116,220、Y=-37,240付近の幅約6.5m、長さ約7.0m、厚さ約0.3mの範囲に集中して出土した。この地点は、落込み底面の深さの影響で上層に存在する灰黄褐色粘質土層が厚く堆積し、他の地点より凹レンズ状に堆積している。また、灰黄褐色粘質土層の底面が他の地点より深く、現状からいえば、常時水が存在し、沼状になっていたものと推定される。出土状況は、材木がアトランダムに出土したのではなく、落込みの肩部と垂直に近い方向に配置されていたように見受けられるものが多く、規則性が認められる。

この周辺からは自然木および木の根も多数出土しているが、建築材として認められるものは、総数100点を超える。主なものは板材(第10図 $-62\sim67$)で、大きいもので長さ約308cm、幅約16.5 cm、厚さ約7.6cm(62)、小さなもので長さ約79.4cm、幅約12.5cm、厚さ約2.7cm(66)まで各種存在する。しかしこれらは、丸太材を板材用に割り揃えたのみで、ヤリガンナなどの金属器などによって、きれいに表面を整形したものはない。板材の他に特に注目されるものとしては、何に使用されるかは現在の所不明であるが、先端を杭状に尖らした長さ約291.0cm、径約5.7cmを測る長い棒の先を、本体と枝を利用して二股に切り揃えているもの(第10図 $-68\cdot69$)がある。このことから、棒の先端は地中に打ち込み、二股の部分は何かを立掛けるように作られたものではないかと考えている。またこれ以外には、図化はしていないが垂木に使用すると思われる径5.2cm、長さ309.5cmを測る棒などがある。

しかし、これらは大きさから柱、梁などの建物の基礎になる大きな部材は見当たらないこと、 またこれらは使用痕が全く認められないこと、周辺に自然木は認められるものの、これらを加工 した際に出来る木屑が認められないことなどから、これらを建築部材にある程度加工した後、こ の地点に集められたものと考えている。

配置された時期は、落込み内の土器(第8図、図版11・14)から13世紀前半と推定される。 また、これらより、上層で田下駄(第10図-70)が出土している。

その他の遺構(図版 1 - 2) 調査区内のほぼ全域にわたって木株、木の根などが多数検出された。木株は切り株が多く、自然に枯れたものは少ない。落込みが存在していた当時は、木が周辺に生い茂っていた可能性が高く、これより上層は、水田の可能性が高い土質、色調を呈していることから、この周辺を水田化するために、木を伐採したものと考えている。

4. 出土遺物 (第11図、図版12)

遺構以外からの出土遺物は、中世のものが大半を占め、瓦器椀、瓦器小皿、土師器皿、土師器小皿、須恵器擂鉢、青磁碗、白磁碗などがあり、時期は12世紀後半から13世紀後半と推定される。それ以外には、平安時代前期(9世紀)と推定される杯身(105)がある。これらは、地形から谷の北側縁辺部から流れ込んだものと推定される。

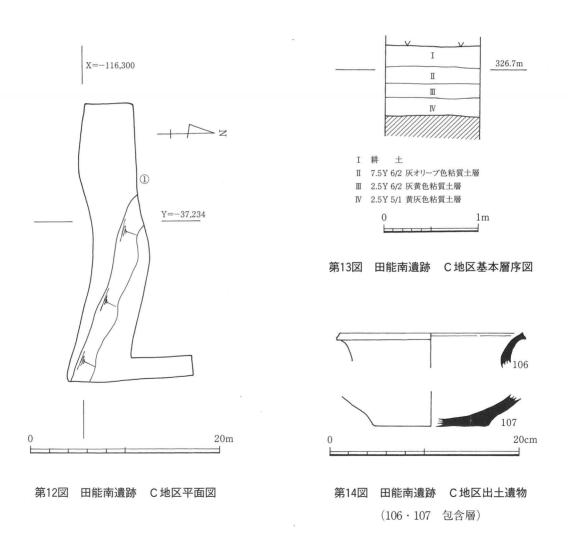
第4節 C地区の調査

C地区(第12図)は、A地区の南側に存在し、遺跡の南東端付近にあたる。基本的には東西方向に長い調査区である。調査区は、地形的には谷の開口部、南西方向から派生する丘陵の縁辺部付近のX=-116,300、Y=-37,247付近からX=-116,289、Y=-37,217付近に位置し、長さ約30m、幅約5mを測る。

基本層序(第13図)は、堆積層の厚さの違いは認められるものの、地山から耕土層までは、A・B両地区に存在する層と同様にほぼ水平に堆積し、土質、色調も極めて酷似している。ただ調査区が丘陵の縁辺部にあたることにより、地山が南側に行くに従い高くなり、各層が徐々に収束し南西端では耕土層のみとなる。

当該地区は、土層断面観察の結果、A・B両地区と同様、中世以降水田であったものと推定され、遺構は、南西方向から延びる丘陵の縁辺部付近の落ちを確認したのみで、全く存在しなかった。

遺物(第14図)は、少量でⅢ・Ⅳ層中より出土した。出土した遺物は、西側に存在する中世と推定される遺構からのものと考えられ、種類は瓦器椀、土師器皿、土師器羽釜、須恵器擂鉢、甕片などであるが、細片が多く図化出来たのは2点のみであった。



第5節 D地区の調査

1. 調査の概要 (第15図、図版3-1・2)

D地区は、谷の南側、西から東に延びる丘陵の縁辺部付近に位置し、C地区とE地区に挟まれた東西に細長い調査区で、 当該遺跡内では、集落が営まれるには最も地形的には適している地区と考えられる。

調査区は、X = -116,312、Y = -37,359付近からX = -116,307、Y = -37,286付近までの東西長約73m、南北幅約6mを測る。調査区は、西から東に緩やかに下る谷の南側縁辺部付近に存在するため、西端と東端との地山面での標高差は2.5m存在する。

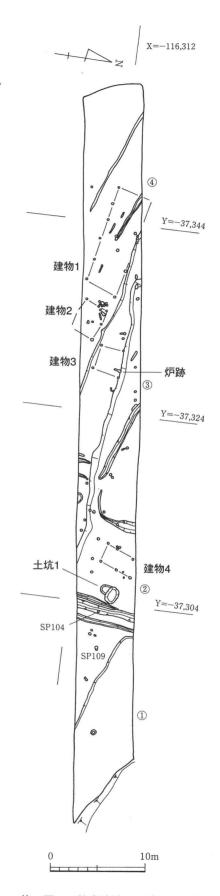
検出した遺構は、建物4棟、土坑1基、杭列2基、溝、建 物に伴わない柱穴などである。

2. 基本層序 (第16図、図版3-3・4)

層序は、東西長約73mの細長い調査区にもかかわらず、近世から近代にかけて水田造成時に削平ないしは盛土を行っているが、地形の変化や若干の土質の違いは認められるものの、本来はほぼ同様な堆積状況を示しているものと推定される。

以下、各層の概要を記述する。

- **I層** 耕土層で層厚は、約0.2mを測る。また、調査区の一部に存在する I'層は、旧耕土層で、層厚0.2mを測る。
- **II 層** 褐色粘質土層を基本とする層で、当該地区の床土層である。層厚は、0.1m前後を測る。また、調査区の一部に存在する II 層は旧床土層である。
- **Ⅲ層** にぶい黄褐色砂質粘土層を基本とする層で、当該地区の遺物包含層であるⅣ層とほぼ同系統の土質、色調を呈していることから丘陵上部よりその土が流れ、堆積したものと考えている。層厚は、0.05mから0.2mを測る。部分的に2層に分かれる地点も存在する。
- **№層** 灰黄褐色砂質粘土層を基本とする層で、当該地区の 平安時代から中世までの遺物を包含する層である。 層厚は、0.05mから0.2mを測る。



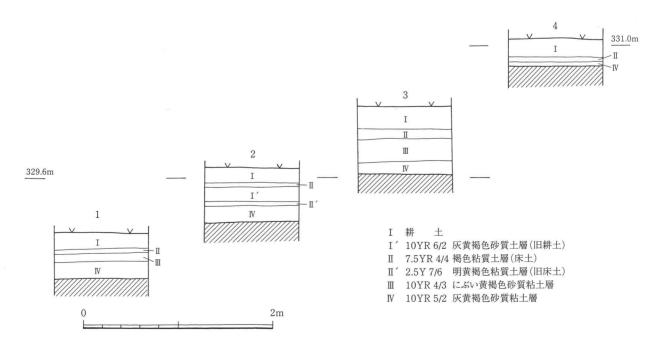
第15図 田能南遺跡 D地区平面図

3. 調査の成果

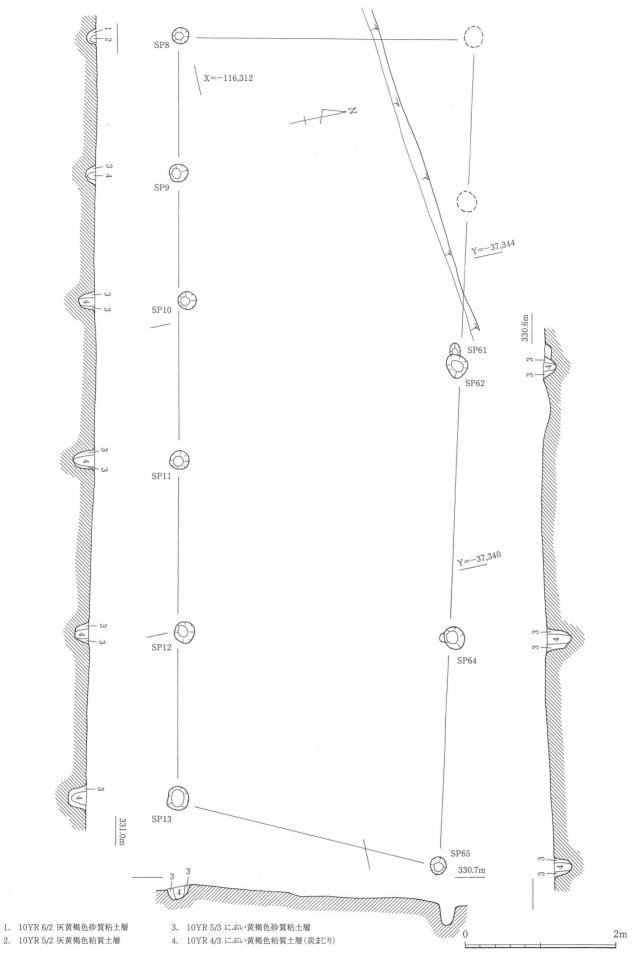
建物1(第17図、図版3-2・図版4-1~7) 建物2、建物3とでひとつの屋敷地を構成すると考えられるもので、北側の桁行の一部は調査区外にある。建物は、X=-116,312、Y=-37,342付近を中心とする基本的に梁間1間(東側約3.5m)、桁行5間(南側約10.05m)を測る。しかし、北側の桁行の一部が調査区外にあるため全容は不明であるが、南側のものとでは、柱間の間隔が広いことから、柱穴の数が1本少なく4間と推定される。また、東端で梁間と桁行が揃わず、0.8m程度北側が長い。柱間は、南側は、1.8mから2.1m、北側は、3.0mから3.5mを測る。柱穴は円形に近い形を呈し、径0.3m前後、地山面からの深さ0.15mから0.3mを測る。柱痕は、土層断面観察の結果、径0.1m前後を測る。柱穴内からは、SP65から黒色土器底部(第22図-108)が出土している。建物の時期は、出土遺物から平安時代中期と推定される。

建物 2 (第18図、図版 4-8) 南側の一部が調査区外にあり、建物 1 と約 1 m東に離れほぼ同方向に接して建てられている。規模が建物 1 より小さいことから建物 1 に付随する施設と考えられる。梁間 1 間 (約2.4m)、桁行 2 間 (3.4m)を測るが、桁行の中央の柱穴が0.1m程度外側に張り出している。このことから桁と梁が異なる可能性がある。柱穴は円形に近い形を呈し、径 0.2mから0.3m、地山面からの深さ0.15mから0.3mを測る。柱痕は、土層断面観察の結果径0.1m前後を測る。

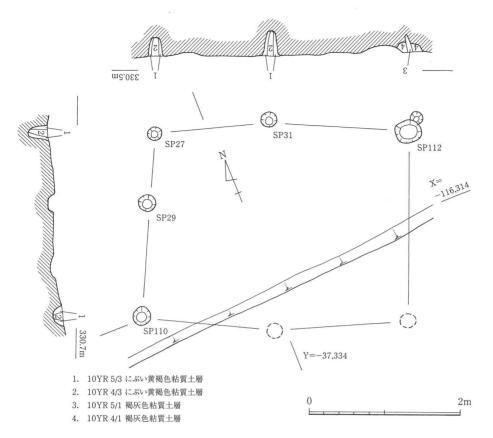
建物3 (第19図) 建物2の北東側、X=-116,311、Y=-37,329付近を中心とする建物で、炉跡1を覆う位置に存在していることから、これに付随する施設と推定される。建物の北側が削平を受け、段になっているため規模は不明である。梁間1間(約2.5m)、桁行1間(2.9m以上)を測り、西側の桁と梁が直行していないこと。柱穴は、径約0.15m前後、深さ約0.1m前後と、今



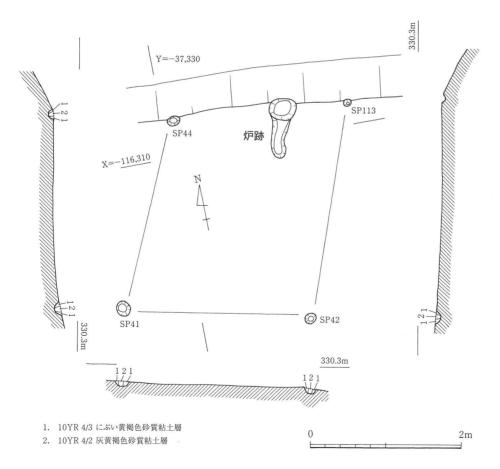
第16図 田能南遺跡 D地区基本層序図



第17回 田能南遺跡 D地区建物1平面·断面図



第18図 田能南遺跡 D地区建物2平面·断面図



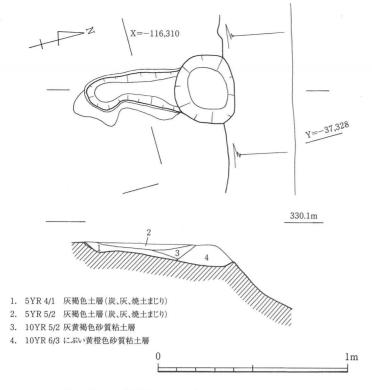
第19図 田能南遺跡 D地区建物 3 平面・断面図

回検出した他のもの と比較して小規模で、 柱痕は、土層断面観 察の結果、径0.05m 前後を測る。これら のことから小屋状の 覆屋といったのもの を想定している。

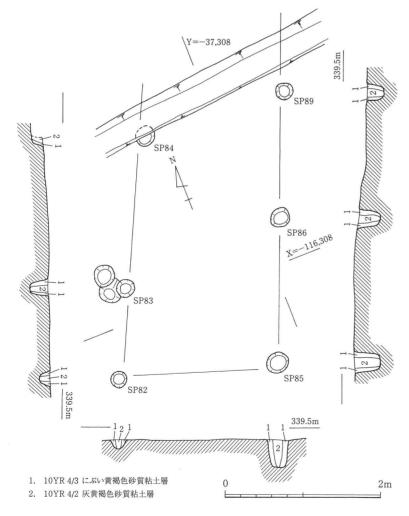
また、建物1・2 と建物の軸がほぼ同 方向のため、現在の 所これらに伴うもの と考えているが、柱 穴内から遺物が全く 出土していないため 不明な点が残る。

炉跡1(第20図)

X = -116,310, Y =-37,328.5付近を中 心とする。これには、 前述した建物3が付 随すると考えている。 炉跡は、北側が削平 を受け斜面となって いるため欠失してい る。長さ0.8m以上、 幅は北側で約0.35m、 南の先端付近で丸く なり約0.15mを測る。 炉の壁面から底面の ほとんどは、高熱を 受け、厚さ約0.01m から0.03m程度赤変 しているが、北側の



第20回 田能南遺跡 D地区炉跡平面·断面図

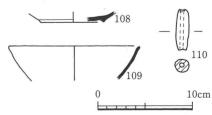


第21図 田能南遺跡 D地区建物 4 平面・断面図

約0.3mの間は平面形では径0.3m 前後、地山面からの深さ約0.1m を測る土坑状の落込みをなし、壁 面は赤変していない。土層断面観 察では、炉の本体と考えられる部 分は、この周辺で立ち上がっており、用途は不明であるが、炉築造 時には土坑状に掘られたが、使用 時には、埋められていたものと考 えている。

高熱を伴う作業をしていたものと推定されるが炉跡内及び炉の周辺からは、鉱滓などが全く出土していないため用途は不明である。

建物4 (第21図) 建物は、X=-116,308、Y=-37,309付近を中心とし、北側が調査区外に延びる。基本的に梁間1間 (2.0m)、桁行2間(3.5m)以上を測る建物である。梁の柱間2.0m、桁行きの柱間は異なり、1.2mから1.8mを測る。柱穴は円形に近く、径0.2m前後、深さ0.15mから0.35mを測る。柱痕は、土層断面観察の結果、径0.1m前後を測る。柱穴内からは、遺物は出土しなかったが、周辺からの出土遺物から中世と推定される。



 第22図
 田能南遺跡
 D地区遺構出土遺物

 (108
 SP65、109
 SP104、110
 SP109)

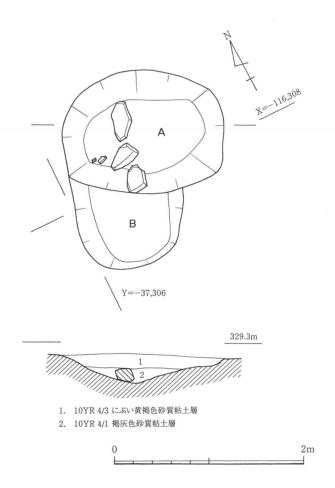
土坑1 (第23図) 建物4の東側、X=-116,308、Y=-37,305付近を中心とする。土坑は2 基存在しほぼ同一地点で切り合っていたため検出面上面では、同一のものと判断して掘削した。土坑は、土層断面観察の結果、土坑1-Aが古く、土坑1-Bが新しい。土坑1-Aは、平面形では楕円形に近い形を呈し、長径約1.7m、短径約1.3m、深さ約0.3m、土坑1-Bは、平面形では楕円形に近い形を呈し、長径約1.2m以上、短径約0.7m、深さ約0.1mを測る。土坑内からの遺物は少量で、瓦器、土師器の細片が出土したが、図化出来なかった。

その他の遺構 その他の遺構として図化はしていないが、多数の杭跡が検出された。杭跡は、 D地区ほぼ全域にわたって検出された。特に斜面に沿って地山面を整形し、段を作っている地点 が2ヶ所存在し、その周辺に集中し並んで検出された。埋土が褐色を呈していることから中世以 前のものと推定しているが、用途は不明である。

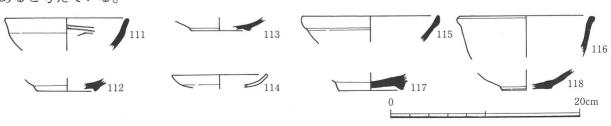
4. 出土遺物

D地区には、厚さ0.05mから0.2mを測る遺物包含層相当層が存在するが、他の地区と比較すると遺物は少量(第24図、図版12)であった。出土した遺物は、瓦器椀、土師器小皿、青磁碗、白磁碗など中世のものが大半を占めるが、当調査区で検出した主な遺構の時期と考えられる平安時代と推定される、黒色土器椀、須恵器杯身、須恵器椀なども少量ながら出土している。

これらの中でSP109内から出土した土 錘(第22図-110、図版12-110)は、注目 に値する。田能盆地内には、小河川の田 能川が流れているが、川幅が狭く、そこで 川魚を獲るための網などの道具の一部と してこれが使用されていたとは考えにく く、鳥などから農作物を守るための網の 錘として使用されたと考えた方が妥当で あると考えている。



第23図 田能南遺跡 D地区土坑1平面・断面図



第24図 田能南遺跡 D地区出土遺物 (111~118 包含層)

第6節 E地区の調査

1. 調査の概要 (第27図、図版5-1)

E地区は、D地区の西側、谷の先端付近のX=-116,312、Y=-37,411付近からX=-116,304、Y=-37,359付近までの東西長約53m、南北幅約6mを測る調査区で、地形的には東側半分は丘

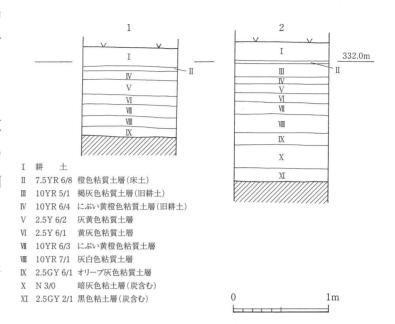
陵縁辺部、西側は谷部となる。検出 した遺構は、柵列、自然流路などで ある。

2. 基本層序 (第25図、図版 5 - 3) 当該調査区は、耕土層以下地山直 上層まで盛土層で、層中より中世の 遺物の他に近世の遺物 (第26図、図 版12) が出土している。

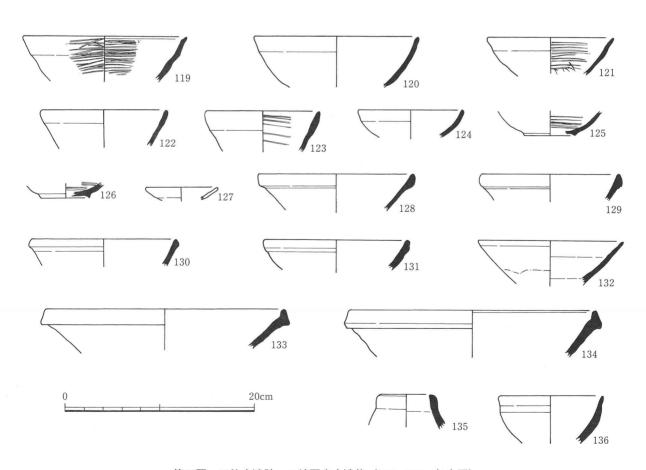
以下、各層の概要を記述する。

I層 耕土層で層厚は、約0.2m を測る。

■層 橙色粘質土層を基本とする層で、当該地区の床土層である。



第25図 田能南遺跡 E 地区基本層序図



第26図 田能南遺跡 E 地区出土遺物 $(119\sim136$ 包含層)

る。層厚は、0.1m前後を測る。

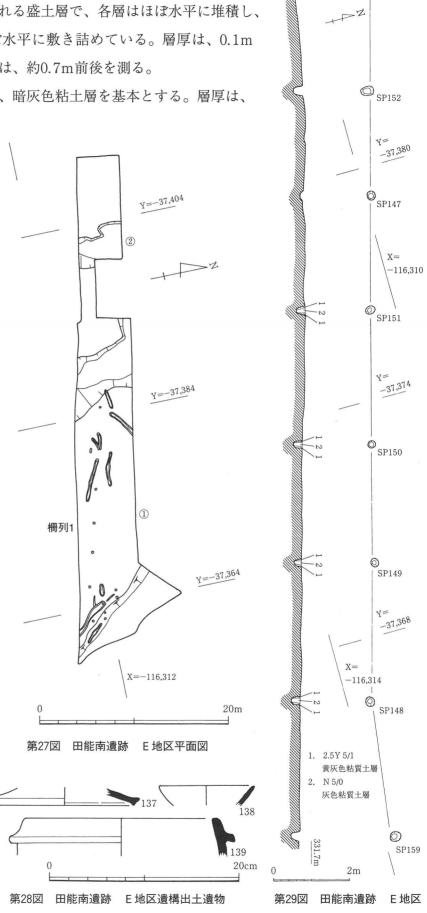
Ⅲ層~区層 近世と推定される盛土層で、各層はほぼ水平に堆積し、 若干異なる土砂をほぼ水平に敷き詰めている。層厚は、0.1m 前後、盛土全体の厚さは、約0.7m前後を測る。

X層 流路上層の堆積層で、暗灰色粘土層を基本とする。層厚は、 約0.25mを測る。

XI層 流路の堆積層で、 黒色粘土層を基本 とする。層厚は、 約0.2mを測る。

3. 調査の成果

柵列1(第29図、図版5 -2・4~7) 調査区の 東側 X = -116,308、 Y = -37,385付近からX = -116,314、Y = -37,363付 近の平坦面に存在し、全 長約21.6mを測る東西方 向に延びる柵列である。 その中に8本の柱穴が存 在し、柱間は、2.5mから 3.5mを測る。柱穴は、径 約0.2m前後で、深さ0.2 m前後、柱痕は、0.1m前 後を測る。遺物は、SP159 (第28図) 内より近世陶 器が出土している。柵列 の用途は、調査区が南北 約6mと狭い為不明であ るが、土層の前後関係か ら、この周辺が盛土に よって耕地化される以前 のものである。



© SP153

柵列1平面・断面図

(137~139 SP159)

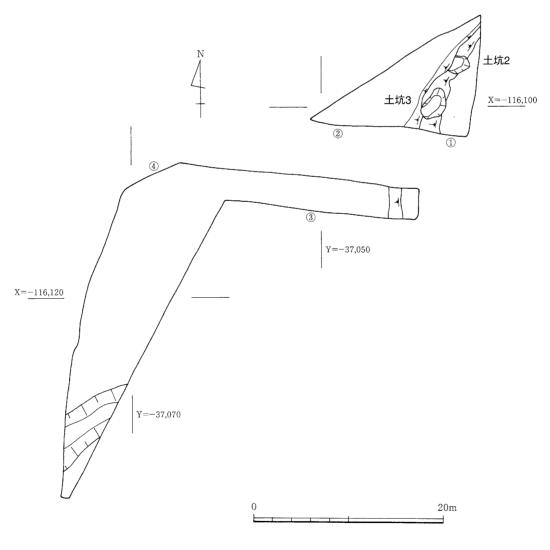
第7節 F地区の調査

1. 調査の概要 (第30図、図版 6-1)

F地区は、平成11年度の遺跡確認調査で、田能北遺跡の範囲に新たに加えられた地域である。しかし今回は、調査区が田能南遺跡に隣接していることから一連のものであることとして捉え、F地区として調査を実施した。地形的には、田能川東岸の東から西に派生する丘陵の縁辺部から田能川の河岸段丘面上に存在する。調査区の範囲は、遺跡の範囲拡大された地域の大半を占め、X=-116,090、Y=-37,033付近から X=-116,141、Y=-37,077付近までの東西長約44x0、南北長約52x0の範囲内にある。

調査は、切土によって遺構が破壊される地点に限定して実施していることから、調査区は平面 形では、三角形に近い形が2ヶ所存在しているような形状を示し、地形的には調査区内に存在す る各水田の段差により、上段、中段、下段に分けることが出来る。

調査区内で検出した遺構は、周辺を水田化された時点において削平を受けたものと推定され、土坑2基、自然流路と極めて少ない。



第30図 田能南遺跡 F地区平面図

2. 基本層序 (第31図、図版 6-3・4)

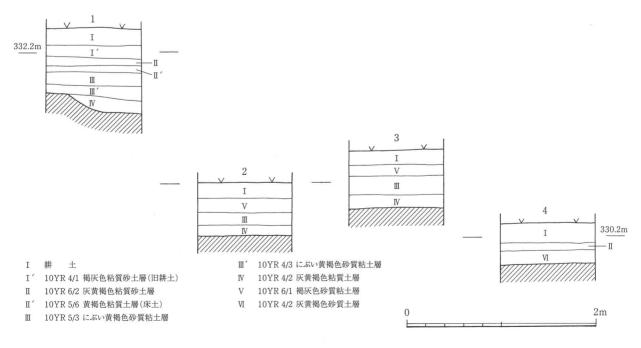
調査区内の層序は、土層断面観察の結果、基本的に盛土の部分と切土部分に分けることできる。 上段は切土、中段は盛土、下段は切土によって水田が造成されているものと推定される。

以下、各層の概要を記述する。

- I層 耕土層で層厚は、約0.2mを測る。
- **Ⅱ層** 床土層で、灰黄褐色粘質砂土層を基本とする。部分的に2層存在する箇所も存在する。 層厚は、0.1mを測る。
- **Ⅲ層** 調査地区の上段から中段にかけて存在する層で、にぶい黄褐色砂質粘土層を基本とする。 層厚は、0.1mから0.2mを測る。
- **IV層** 調査地区上段から中段にかけて存在する層で、灰黄褐色粘質土層を基本とする。層厚は、約0.2mを測る。
- **V層** 調査地区中段に存在する水田造成時の盛土層で、褐灰色砂質粘土層を基本とする。層厚は、0.2mから0.3mを測る。
- **M層** 調査地区下段に存在する層で、灰黄褐色砂質土層を基本とする。近世までの遺物を含む。 層厚は、0.15m前後を測る。

3. 調査の成果

土坑 2 (第32図、図版 6-2) 調査区北東側、X=-116,096、Y=-37,036付近を中心とする。遺構は、調査区の上段から中段にかけての斜面上に存在し、土坑の南側約 2 mには土坑 2 がある。土坑の西側は、水田が造成された際に削平を受け、肩部が存在しない。土坑の平面形は、円形に近い形をしていたものと推定され、東西長約1.7m以上、南北幅約2.0m、最大深さ約0.35mを測る。遺物は、土坑内から黒色土器の細片が出土したが図化できなかった。



第31図 田能南遺跡 F地区層序図

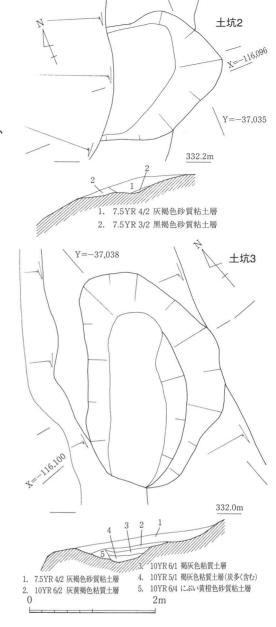
時期は、出土遺物から平安時代と推定される。

土坑 3 (第32図、図版 6 - 2) 調査区北東側、X = -116,100、Y = -37,038付近を中心とし、調査区の上段から中段にかけての斜面上に存在する。土坑の南西側は、水田が造成された際に削平を受けたものと推定され、肩部が存在しない。土坑の平面形は、楕円形に近い形をしていたものと推定される。土坑は、東側の一部が2段になっており、長径約3.4m以上、短径幅約2.1m、最大深さ約0.35mを測る。遺物は、土坑内から、黒色土器の破片が出土したが図化できなかった。

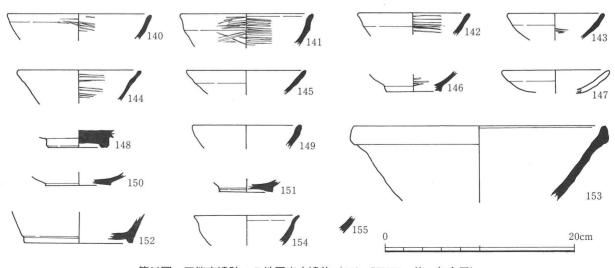
時期は、出土遺物から平安時代と推定される。 4. 出土遺物(第33図、図版12)

下地区から出土した遺物の量は、他の調査区と比較すると多くはない。遺物の種類は、瓦器椀 (140~146)、土師器小皿 (147)、青磁碗 (148) など他の調査区同様平安時代末期から中世にかけての遺物が大半を占める。しかし、須恵器椀 (149~151)、須恵器杯身 (152)、緑釉陶器 (154、155) などのように、平安時代前期から中期にかけての遺物が、他の調査区に比べ、比較的多く出土している。

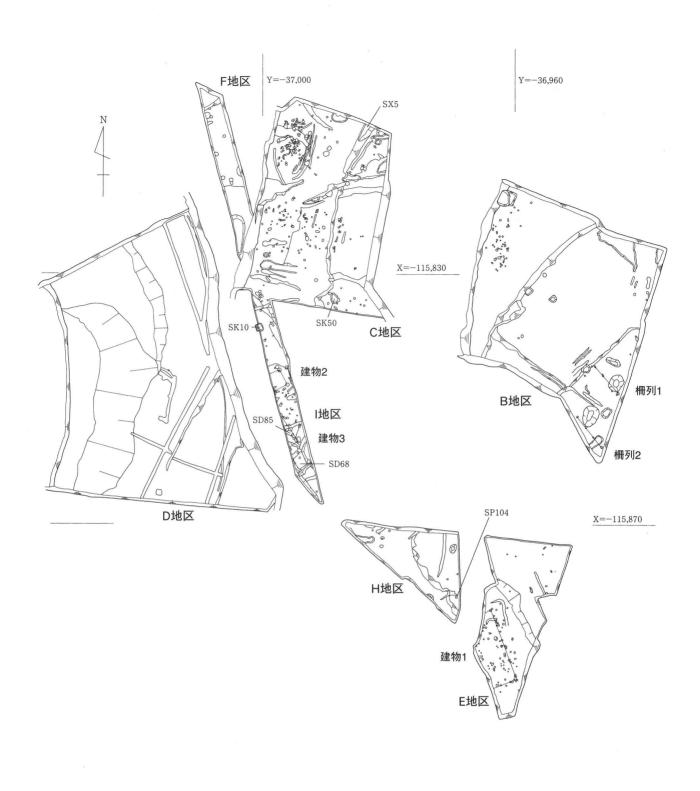
このことから調査区東側の丘陵縁辺部周辺現集落 状上には、中世の他に平安時代前期から中期にかけ ての遺構が存在する可能性が高い。

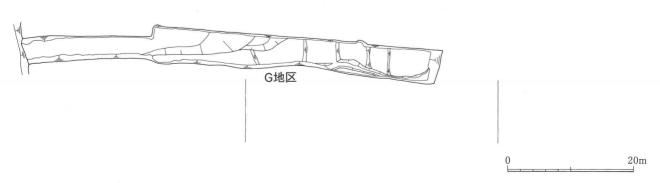


第32図 田能南遺跡 F地区土坑2・3平面・断面図



第33図 田能南遺跡 F地区出土遺物 (140 SK201、他 包含層)





第34図 田能北遺跡 平面図

第3章 田能北遺跡の概要

1. 概要(第2·34図、図版7-1·2)

田能北遺跡は、基本的に田能盆地北側の田能川左岸に広がる遺跡で、遺跡の大半は田能川左岸の丘陵縁辺部周辺に存在する。遺跡の規模は、東西長約120m、南北幅約300mを測る。調査は、圃場整備に伴って遺構が破壊される部分に限定して行った。

調査は、平成11年度に実施した田能北遺跡A地区を加え、地区毎にBからIまでの8調査区に分けて実施し、調査面積は、約2950㎡を測る。今回の調査区のほとんどは、東の山塊から西の田能川に向って下る同一丘陵内に存在する。

検出した遺構は、建物 3 棟、柵列 2 本、土坑12基、井戸 1 基、溝、火葬施設跡 1 基、柱穴などある。

この項では、今回の調査で検出した主な遺構・遺物について記述し、全容については改めて報告する予定である。

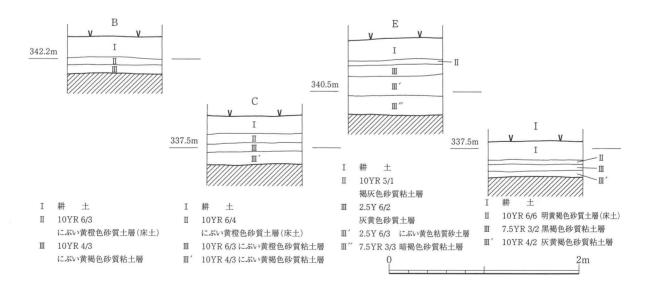
2. 基本層序 (第35図、図版7-3~5)

ここでは、今回調査の概要を報告するB、C、E、Iの4地区の基本層序を記述する。記述した地区の層序は、層厚、色調、土質の違いはあるもののほぼ同様な堆積状況を示している。

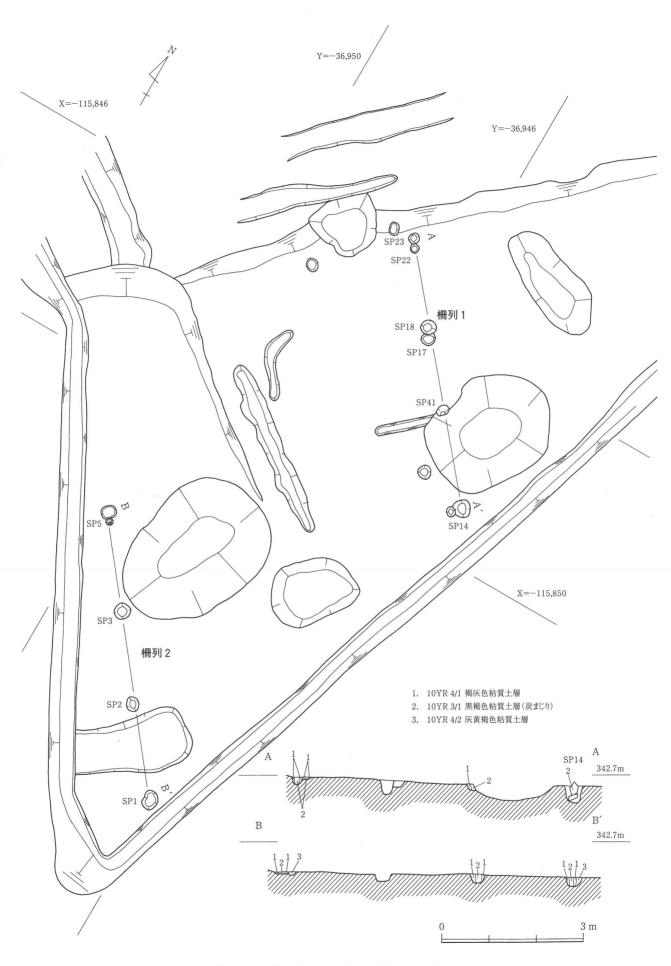
層序は、基本的に上層から耕土層 (I層)、床土層 (II層)、遺物包含相当層 (II層) の順となる。

以下、各層の概要を記述する。

- **I層** 耕土層で層厚は、0.2m前後を測る。
- **Ⅱ層** 床土層で、黄褐色系砂質土層を基本とする。部分的に2層存在する箇所も存在する。層厚は、0.1m前後を測る。



第35図 田能北遺跡 基本層序図



第36図 田能北遺跡 B地区南東部平面·断面図

Ⅲ層 褐色系の砂質粘土層を基本とする。今回報告する調査地区の遺物包含層である。層厚は、0.1mから0.2mを測る。

3. B地区の調査(第36図)

概要 B地区は、今回調査を実施した地区の中では最も高所に位置する。調査区のほとんどは、水田造成時に削平を受け、旧地形が欠失している。遺構が残存していたのは、削平を受けていない調査区の東南部周辺が最も多い。検出した遺構は、柵列2本、土坑5基、火葬施設1基、柱穴群、溝などである。

柵列1 調査区の東南側 X=-115,845、Y=-36,947付近から X=-115,849、Y=-36,944付近に存在し、北西から南東方向の調査区外に延びる柵列である。その間に 4 本の柱穴が存在し、検出長5.7m、柱間は、1.8mから2.2mを測る。柱穴は、径約0.3m前後で、深さ0.2mから0.3m前後、柱痕は、0.1m前後を測る。

遺物は、SP14内より土師器小皿(第37図-156)が出土していることから平安時代中期(11世紀)と推定される。

柵列 2 調査区の東南端 X = -115,853、Y = -36,950付近から X = -115,858、Y = -36,946付近に存在し、北西から南東方向の調査区外に延びる柵列である。その間に 4 本の柱穴が存在し、検出長6.1m、柱間は、2.0mから2.1mを測る。柱穴は、径約0.3m前後で、深さ0.05mから0.2m、柱痕は、0.15m前後を測る。

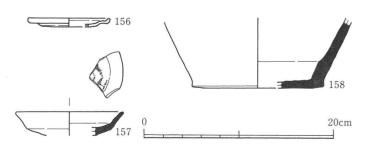
柵列の東南側と南東側が調査区外と隣接しているため不明な点が多いが、柵列1とほぼ同方向であることから、柵列1に対応する建物である可能性も大いにある。

柱穴内から遺物は出土しなかったが、柵列1とほぼ同方向であることから、平安時代中期 (11世紀)と推定される。

4. C地区の調査(第38図、図版8-1)

概要 C地区は西側の丘陵縁辺部に存在する。検出した遺構は、建物群1ヶ所、土坑、溝、建物にはならない柱穴などである。

建物群(第38図、図版 8 $-1 \cdot 2$) 調査区の北西端のX = -115,808、Y = -36,994付近を中心に存在し、遺構は小溝群と柱穴群によって構成される。東の斜面側に幅約0.1mから0.2m、深さ約0.05m前後の小溝が、内側にやや弧を描くように9本以上切りあって存在し、その内部に96個以上の柱穴が確認された。柱穴の並びから、何棟かの建物が存在すると思われるが、それ以降



第37図 田能北遺跡 B地区出土遺物 (156 SP14、他 包含層)

に出来た溝などによって周辺の遺構面が削平を受けているため何棟の建物が存在するかは不明である。ただ東の斜面側に掘られた小溝が、雨を防ぐ溝とすれば、9棟前後の建物が存在することになろう。



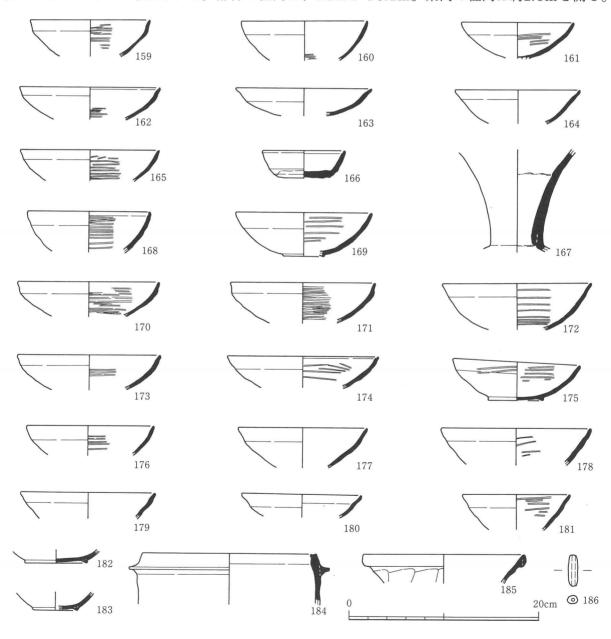
第38図 田能北遺跡 C地区建物群平面・断面図

建物群の時期は、柱穴内の遺物が少量で図化が出来るものはなかったが、周辺の遺構、遺物包含層から出土した遺物(第39図、図版 $13\cdot 14-166\cdot 169\cdot 175$)から、12世紀後半から13世紀初頭にかけてのものと推定される。

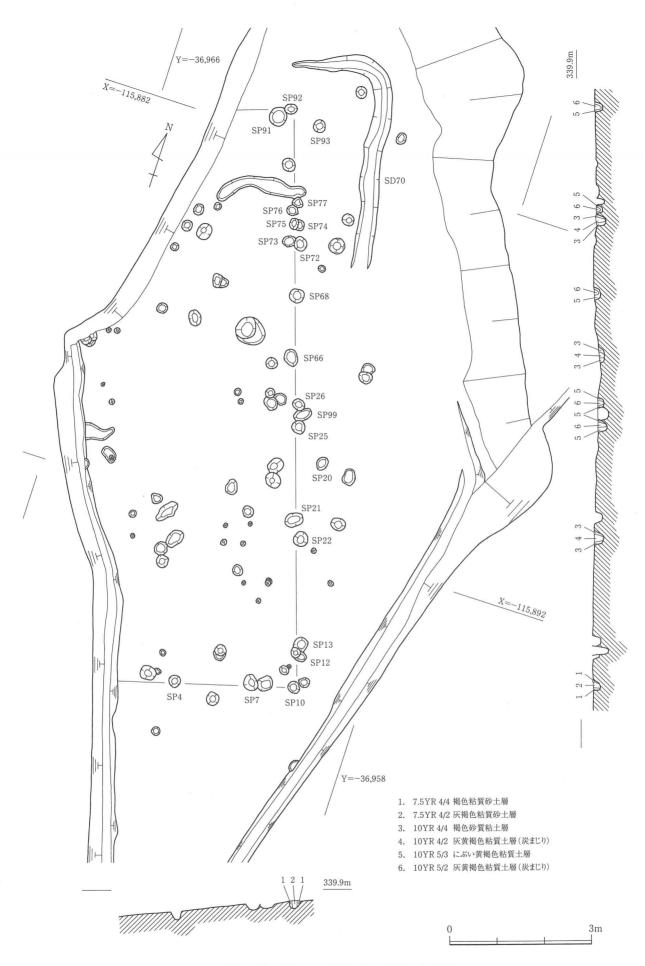
5. E地区の調査 (第40図、図版 9-1~7)

概要 E地区は、丘陵南側の縁辺部付近に存在する。調査区は、地形の変化により上段と下段 とに分けることが出来る。遺構は、下段に集中して検出されており、検出した遺構は、建物1棟、 溝、建物にはならない柱穴多数などである。

建物1 (第40図) 建物1は、下段のX = -115,890、Y = -36,962付近に存在する。建物は、梁間1間(約2.5m)以上、桁行5間(12.2m)と推定されるが、南側から南西側の約2分の1が調査区外にあるため不明な点が多い。桁行及び梁間に同方向に並ぶ柱穴があり、2回以上の建て替えがあったものと考えられる。桁行の柱間は、1.9mから3.1m。梁間の柱間は約2.5mを測る。



第39図 田能北遺跡 C地区出土遺物 (159~165 SX5、166·167 SK50、168·169 SD106、他 包含層)



第40回 田能北遺跡 E地区建物1平面·断面図

柱穴は円形に近い形を呈し、径0.2mから0.3m、地山面からの深さ0.15mから0.2mを測る。柱痕は、土層断面観察の結果、径0.15m前後を測る。

建物の時期は、柱穴内、他の遺構、遺物包含層から出土した遺物(第41図、図版13・14-187・188)などから平安時代後期(11世紀)と推定される。

また、建物西に存在する段は、当初水田造成時に築造されたと考えていたが、建物と同方向に延びていること、段の近くまで遺構が存在していることなどから同時期のものと考えている。

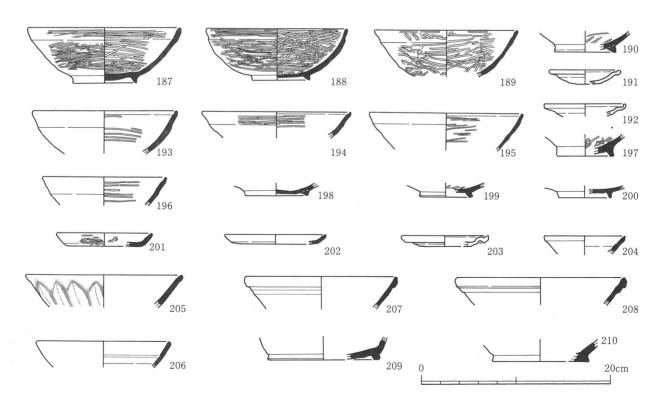
6. I地区の調査

概要 I地区(図版9-8)は、西側から南西側の丘陵縁辺部にC地区と接して存在する。検 出した遺構は、建物2棟、土坑、溝、建物にならない柱穴などである。

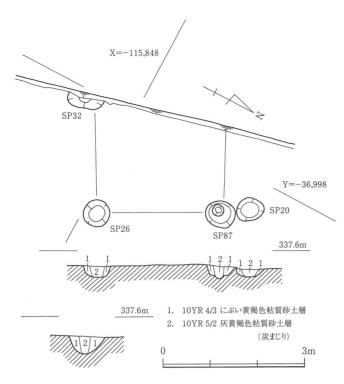
建物 2 (第42図、図版 $10-5\sim8$) 調査区の中央付近、X=-115,848、Y=-36,997付近に存在する。建物は、梁間 1 間 (約2.6m)、桁行 1 間 (2.6m) 以上と推定されるが、西側のほとんどが調査区外にあるため不明な点が多い。桁行の柱間は、約2.6mを測る。柱穴は円形に近い、今回までの調査で検出した柱穴の中では最も大きな部類に属し、径0.6mから0.8m、地山面からの深さ0.2mから0.4mを測る。柱痕は土層断面観察の結果、径0.3m前後を測る。

建物の時期は、柱穴内から全く遺物が出土しなかったこと、他の遺構内、遺物包含層からも、建物の時期に相当するような遺物が出土しなかったことなどから不明な点が多いが、柱穴の規模、建物1・2との比較などから考えると、平安時代中期(10世紀)頃が妥当ではないかと考えている。

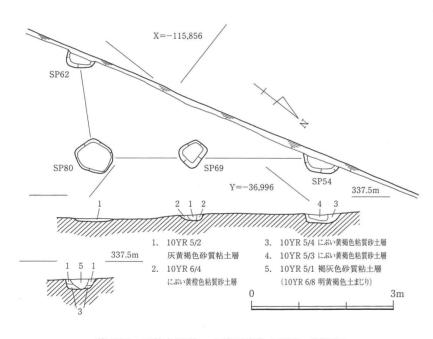
建物3 (第43図、図版 $10-1\sim4$) 調査区の南東側、X=-115,856、Y=-36,995付近に存



第41図 田能北遺跡 E・H地区出土遺物 (187 SP93、188 SP20、189 SD70、190 SP104、191 SP66、192 SP75、他 包含層)



第42図 田能北遺跡 I地区建物2平面·断面図



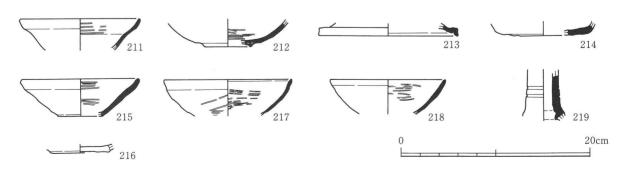
第43図 田能北遺跡 I地区建物 3 平面・断面図

在する。建物は、梁間1間(2.2m)以上、桁行2間(4.8m)以上と推定されるが、西側のほとんどが調査区外にあるため不明な点が多い。桁行の柱間は、2.1mから2.8m、梁間の柱間は約2.2mを測る。柱穴は楕円形ないしは長方形に近い形を呈し、今回までの調査で検出した柱穴の中では、このような形状のものは全く無い。長径0.6mから0.8m、短径約0.5mから0.7m、地山面が削平を受けたものと推定され、深さ0.05mから0.2mと浅い。柱痕は、土層断面観察の結果、径0.2mから0.4m前後を測る。

建物の時期は、柱穴内から全く遺物が出土しなかったため不明な点が多いが、建物に対

する柱穴の方向が揃っていないこと、周辺の瓦器を伴う遺構、遺物 包含層内から出土した遺物(第44 図、図版14)の中に、須恵器杯蓋 (213)、須恵器杯身(214)、須恵 器壷(219)などが認められること から、平安時代初期頃(9世紀) と考えている。

このことから、建物3は、田能 地区内で検出した遺構の中では、 最も古く、この周辺を開発し始め た時期のものと考えている。



第44図 田能北遺跡 I地区出土遺物 (211~214 SD68、215 SK10、216 SD85、他 包含層)

第4章 ま と め

これまでの調査で、検出した遺構・遺物の中で、最も遡れるものは、田能城跡(1999年度調査)から出土した、縄文時代と推定される石鏃であるが、それ以外にその時代と目されるものは検出されていない。それ以降、この地に人々が定住し始めたのは、平安時代に入ってからであると考えている。

特に、平成13年度に実施した田能北遺跡 E、I地区からは建物跡を3棟確認している。I地区で確認した建物3は、柱穴内からの出土遺物はなかったものの、周辺の遺構、遺物包含層からの遺物および柱穴の形状などから平安時代初期(9世紀)まで遡れるものと考えている。また、遺構は検出されていないものの、これら以外の地区においても遺物包含層中より、僅かながら須恵器、黒色土器、緑釉陶器などの破片が少量ながら出土している。このことから小規模ながら集落が平安時代初期から、田能盆地内の丘陵縁辺部に点在していたものと推定される。

本格的に集落が営まれ出したのは、中世に入ってからと考えられる。田能盆地内の発掘調査、遺跡確認調査の結果及び地形から当時の集落は、盆地の周囲の丘陵端部に沿ってほぼ帯状に存在していたものと想定され、大部分は、周知の遺跡範囲外の現集落とほぼ重なるものと考えられる。

当時の田能地区は、鎌倉時代初期には、丹波国桑田郡田能荘に属し、七条院(後鳥羽院の母)領の38箇庄のひとつで12世紀院政期に形成された膨大な皇室領庄園群の一つであった。高槻市史によると当時の田能庄の庄域は、田能、中畑、二料、杉生、出灰の地域であったとされる。また、平安時代末期の貞応2年(1224)に書かれた田能庄鎮守樫船神社の棟札には、庄園は、田能庄百姓(名主百姓)とそれに数倍する小百姓から構成されていると考えられている。これから多くても40家族前後が、平地面積が最も広い田能盆地を中心に居住していたものと想定している。

また、田能南遺跡(2000年度調査)では、当時水田の可能性がある谷部の調査(A・B・C地区)を行い、建築材の集積場、水田に水を引く用水路と推定される溝などの遺構を検出したが、遺物は出土するものの、直接集落に結びつける遺構は、検出できなかった。

この地区の土層断面は、砂質粘土系の土砂が、地山から厚さ1m前後堆積し、何層かに分けることができる。堆積状況は、ほぼ水平に堆積し、一部に畦畔と推定される高まりが認められること、堆積土が、攪拌を受けていると考えられる色調、土質を呈していたことから、水田であった可能性が高いと判断した。

これら調査で得られた知見及び遺跡の立地条件などを総合し、田能盆地における中世の集落の存在する可能性がある地域、田能川の氾濫源、山林であった可能性のある地域、水利などから稲作可能地域などを割り出し、田能盆地内の中世土地利用状況想定図を第45図に表した。これによると水田耕作可能な地域は限られていたことがわかる。また、周辺の字名には、外畑、中畑の字名が認められることから、水田耕作不可能な地域は、畑作が大々的に行われていた可能性も考えられる。

また、水田耕作可能地域を前述のように第45図に表したが、中世初期にはこれより耕地面積は少ないと推定される。現在のような景観が作り出されたのは、ため池の築造により盆地上部にまで用水が確保出来るようになったと考えられる、江戸時代に入ってからと推察される。このことは、これまでの発掘調査の成果をみても明らかである。

このことから当時稲作が本業であったとは考えにくく、現在でも一戸あたりの反別は少ない。 時代は下るが、江戸時代の文献から、近世においてこの地方が京都の市場に木柴を出荷すること で現金収入を得ていたことが記載されており、このことから この時代にもそのようなことが行 われていたものと推察される。現在も農業の傍ら薪き作り生業にしている家も存在する。

またそれ以外には、田能南遺跡B地区において建築材の集積場と推定される遺構を検出していることから、建築材を売ることによっても生計をたてていたものと考えられる。

しかし、今回までの調査では、神社本殿や神像・仏像を寄進したとされる棟札に記載されていたような人々(名主百姓階級)の住居を想定出来る堀割をもった屋敷地や大規模な建物は、検出されていない。しいて挙げれば神宮寺西遺跡で検出した建物1・2を挙げられる程度である。

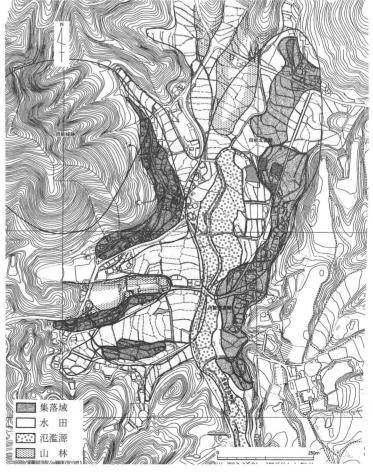
これらの人々の住居は、現集落と重なるか、それとも圃場整備事業予定地内に存在し、どのようなものであったかは、現在の所不明である。

しかし、来年度には田能盆地内の圃場整備事業に伴う調査が進み、ほぼ細切れではあるが、遺跡

の範囲内のほぼ全域が調査されること、また隣接する中畑地区の同事業に伴う遺跡確認調査を実施する予定であり、周辺の状況を含め、田能庄全体(樫田地区)の状況がより明らかになるであろう。



表 1 樫船神社棟札



第45図 田能地区中世土地利用想定図

出土遺物計測值表

凡例

番号 …… 挿図、図版の遺物番号と一致させた。

色 調 …… 小山正忠・竹原秀雄「新版標準土色帳」日本色彩研究所 1992 により、色名については JIS notation で表した。

胎 土 …… 密、やや密、やや粗、粗の順で表した。

焼 成 …… 堅緻、良好、やや不良、不良の順で表した。

遺跡名 …… 遺跡・地区項目の南は田能南遺跡、北は田能北遺跡を表した。

遺物	遺跡	遺構・	李岳 李 石	BR ##		法量	()は復	元値	<i>.</i> p. ⇒m	1 24	خادر جازيا	始 左动	nth dar
No.	地区	層位	種類	器種	口径	器高	底·高台径	その他	色 調	胎土	焼成	残存率	備考
1	南 A	包含層	瓦器	椀	(13.2)	残5.2	_	_	(内) N3/0 (外) N4/0 (断) 10Y8/1	やや密	良好	口縁13%	反転復元
2	南 A	包含層	瓦器	椀	(13.0)	残3.5	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁15%	反転復元
3	南 A	包含層	瓦器	椀	(12.1)	残3.8		_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0	密	良好	口縁12%	反転復元
4	南 A	包含層	瓦器	椀	(13.1)	残3.3	_	_	(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N7/0	密	不良	口縁12%	反転復元
5	南 A	包含層	瓦器	椀	(12.0)	残3.3		_	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y8/2	密	やや不良	口縁15%	反転復元
6	南 A	包含層	瓦器	椀	(11.8)	残3.0	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N3/0	密	良好	口縁8%	反転復元
7	南 A	包含層	瓦器	椀	(13.4)	残3.3	_	_	(内) 5Y7/1 (外) 5Y7/1 (断) 5Y7/1	密	良好	口縁7%	反転復元
8	南 A	包含層	瓦器	椀	(12.3)	残3.3		-	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0	密	良好	口縁10%	反転復元
9	南 A	包含層	瓦器	椀	(6.5)	残3.7	高台1.0		(内) 2.5Y8/2 (外) 2.5Y8/2 (断) 2.5Y8/2 (内) 2.5Y8/2	密	堅緻	口縁13%	反転復元
10	南 A	包含層	瓦器	椀	(11.0)	残2.6	_	_	(外) 2.5Y8/2 (断) 2.5Y8/2	密	不良	口縁10%	反転復元
11	南 A	包含層	瓦器	椀	(11.2)	残3.2		_	(内) N8/0 (外) N8/0 (断) N7/0	密	良好	口縁33%	反転復元
12	南 A	包含層	磁器	青磁碗	(13.4)	残3.4	_	_	(内) 10Y5/2 (外) 10Y5/2 (断) N7/0	密	堅緻	口縁10%	反転復元
13	南 A	包含層	瓦器	椀	(12.0)	残3.8	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0 (内) N7/0	密	良好	口縁7%	反転復元
14	南 A	包含層	瓦器	椀	(10.6)	4.0	高台(5.3)	_	(外) N7/0 (外) N7/0 (断) N7/0 (内) N4/0	密	やや不良	口縁12%	反転復元
15	南 A	包含層	瓦器	椀	(13.4)	残2.7	_	_	(外) N4/0 (外) N4/0 (断) 10Y8/1 (内) N8/0	密	良好	口縁12%	反転復元
16	南 A	包含層	瓦器	椀		残1.8	高台(4.4)	_	(外) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0 (内) N3/0	密	良好	高台20%	反転復元
17	南 A	包含層	瓦器	ш	(10.2)	残1.9	-	_	(外) N3/0 (外) N8/0 (断) N8/0 (内) 5YR5/3	密	良好	口縁15%	反転復元
18	南 A	包含層	土師器	.000.	(7.8)	残1.5			(外) 10YR5/3 (断) 5YR6/4 (内) N3/0	密	良好	口縁20%	反転復元
19	南 A	包含層	瓦器	羽釜	(19.4)	残3.5	-	_	(外) N3/0 (断) N8/0 (内) 2.5Y4/1	密	良好	口縁15%	反転復元
20	南 A	包含層	瓦器	羽釜	(20.0)	残3.5	-		(外) 2.514/1 (外) 2.5Y7/1 (断) 2.5Y8/1 (内) 2.5Y7/2	密	良好	口縁17%	反転復元
21	南 A	包含層	瓦器	羽釜	(15.0)	残5.7		_	(外) 2.571/2 (外) 2.5Y2/1 (断) 5Y8/1 (内) N7/0	やや密	良好	口縁8%	反転復元
22	南 A	包含層	須恵器	擂鉢	(24.8)	残5.3	_	wasn	(外) N7/0 (外) N7/0 (断) N7/0 (内) N5/0	密	良好	口縁7%	反転復元
23	南 A	包含層	須恵器	擂鉢	(30.0)	残3.8	_	_	(外) N5/0 (断) N5/0 (内) N7/0	密	良好	口縁4%	反転復元
24	南 A	包含層	須恵器	擂鉢	(19.6)	残3.6			(外) N7/0 (断) N7/0	やや密	良好	口縁7%	反転復元
25	南 A	包含層	磁器	白磁碗	_	残2.8	高台6.0		(釉) 7.5Y7/2 (断) 10Y8/1	容や今	堅緻	高台23%	反転復元
26	南 A	包含層	磁器	青磁碗	_	残2.9	-	_	(釉) 2.5GY6/1 (断) N8/0	密	良好	高台17%	反転復元
27	南 A	包含層	土師質	フイゴ羽口	_	残3.7	_	復元径 5.6	(内) 10YR7/2 (外) 5Y7/1 (断) 10YR7/2 (内) 5Y6/1	やや密	良好	-	-
28	南 A	包含層	須恵器	壷	(7.8)	残3.6	-		(外) 5Y5/1 (外) 5Y5/1 (断) N7/0	密	良好	口縁8%	反転復元

表 2 出土遺物観察表 1

遺物	遺跡	遺構・	種類	器種		法量	()は後	元値	Zz ≣⊞	WA 1.	Jat A-	r4 + +	/He dr
No.	地区	層位	1里利	461里	口径	器高	底·高台径		色 調 (内) N6/0	胎土	焼成	残存率	備考
29	南 B	落込み1	瓦器	椀	(13.0)	残2.7	-	-	(外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁13%	反転復元
30	南 B	落込み1	瓦器	椀	(12.4)	残3.2	_	-	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) 5Y8/1	密	良好	口縁15%	反転復元
31	南 B	落込み1	瓦器	椀	(14.4)	残3.9		_	(内) N6/0 (外) 7.5Y7/1 (断) 7.5Y7/1	密	良好	口縁8%	反転復元
32	南 B	落込み1	瓦器	椀	(12.8)	残4.5	_	_	(内) 2.5Y8/1 (外) 2.5Y8/1 (断) 2.5Y8/1	密	不良	口縁12%	反転復元
33	南 B	落込み1	瓦器	椀	(12.0)	残3.0	_	_	(内) N8/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
34	南 B	落込み1	瓦器	椀	(11.2)	残3.8	_	_	(内) N5/0 (外) N3/0 (断) 2.5GY8/1	密	不良	口縁17%	反転復元
35	南 B	落込み1	瓦器	椀	(3.0)	残3.7	_		(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁11%	反転復元
36	南 B	落込み1	瓦器	椀	(12.0)	残3.2		-	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) 5Y8/1	密	良好	口縁12%	反転復元
37	南 B	落込み1	瓦器	椀	(11.0)	残3.7	_	_	(内) N8/0 (外) N8/0 (断) N8/0	やや密	不良	口縁20%	反転復元
38	南 B	落込み1	瓦器	椀	(11.4)	残3.6		_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁8%	反転復元
39	南 B	落込み1	瓦器	椀	(13,2)	残3.2	2000m		(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
40	南 B	落込み1	瓦器	椀		残2.1	高台(5.6)		(内) 2.5Y8/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y8/2	密	不良	高台25%	反転復元
41	南 B	落込み1	瓦器	椀	_	残1.2	高台(5.6)	_	(内) N7/0 (外) N7/0 (断) 2.5GY8/1	密	良好	高台50%	反転復元
42	南 B	落込み1	瓦器	椀	3.8	残1.7	_	WAR.	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N7/0	密やや	良好	底部のみ	反転復元
43	南 B	落込み1	土師器	Ш	(14.9)	残2.6		-	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁12%	反転復元
44	南 B	落込み1	土師器	Ш	(11.4)	残2.7	_		(内) 2.5Y6/2 (外) 2.5Y6/2 (断) 2.5Y6/2	密	良好	口縁10%	反転復元
45	南 B	落込み1	土師器	Ш	(9.0)	残1.8	_	_	(内) 2.5Y6/2 (外) 2.5Y6/2 (断) 2.5Y6/2	密	良好	口縁20%	反転復元
46	南 B	落込み1	土師器	М	(7.4)	残1.3		_	(内)2.5Y7/2 (外)2.5Y7/2 (断)2.5Y7/2	密	良好	口縁20%	反転復元
47	南 B	落込み1	土師器	Ш	(9.0)	残1.6	_	_	(内) 2.5Y7/1 (外) 2.5Y7/1 (断) 2.5Y7/1	密	良好	口縁25%	反転復元
48	南 B	落込み1	土師器	Ш	(8.4)	残1.3		_	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁18%	反転復元
49	南 B	落込み1	土師器	Ш	(7.2)	残1.5	-		(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁16%	反転復元
50	南 B	落込み1	土師器	Ш	(9.0)	残1.5	_	_	(内) 7.5YR6/3 (外) 10YR7/2 (断) 7.5YR6/3	密	良好	口縁15%	反転復元
51	南 B	落込み1	土師器	Ш.	(8.4)	残1.4	_		(内) 2.5Y6/2 (外) 2.5Y6/2 (断) 2.5Y6/2	密	良好	口縁50%	反転復元
52	南 B	落込み1	土師器	Ш	(8.1)	1.6	-		(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁50%	反転復元
53	南 B	落込み1	土師器	Ш	8.2	1.5	_	_	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	ほぼ完形	反転復元
54	南 B	落込み1	土師器		(6.8)	残1.1	_	_	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁20%	反転復元
55	南 B	落込み1	土師器	ш.	(7.2)	残1.2		_	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁11%	反転復元
56	南 B	落込み1	緑釉陶器	椀	_	残1.8	高台(5.2)		(内) 5G1.7/1 (外) 5G1.7/1 (断) N8/0	やや密	良好	高台33%	反転復元

表 3 出土遺物観察表 2

遺物	遺跡	遺構・	種類	器種		法量	()は復		色調	胎土	焼成	残存率	備考
No.	地区	層位			口径	器高	底•高台径	その他			a		
57	南 B	落込み1	磁器	白磁碗		残2.2	高台(6.2)	_	(釉) 10Y7/1 (断・露) 10Y8/1 (内) N8/0	密	堅緻	高台20%	反転復元
58	南 B	落込み1	磁器	白磁碗	_	残1.6	高台(7.0)	-	(外) N8/0 (断) N8/0	密	堅緻	高台20%	反転復元
59	南 B	落込み1	磁器	白磁碗		残2.5	高台(6.0)	_	(釉) 10Y7/1 (断・露) 10Y8/1	やや密	堅緻	高台25%	反転復元
60	南 B	落込み1	須恵器	擂鉢	(29.6)	残4.3	_	_	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N5/0	密	良好	口縁11%	反転復元
61	南 B	落込み1	須恵器	擂鉢	(24.8)	残2.9	_	_	(内) 7.5GY5/1 (外) 7.5GY5/1 (断) 7.5GY5/1	密	良好	口縁10%	反転復元
62	南 B	落込み1	木製品	板材	308.0 (長)	16.5 (幅)	7.6 (厚)	_	_	-	_	_	
63	南 B	落込み1	木製品	板材	247.2 (長)	15.6 (幅)	3.1 (厚)	_		_	_	_	_
64	南 B	落込み1	木製品	板材	230.2 (長)	11.6 (幅)	1.6 (厚)	_	_	_	-	_	
65	南 B	落込み1	木製品	板材	129.3 (長)	11.2 (幅)	1.7 (厚)	_	_	_	_	_	
66	南 B	落込み1	木製品	板材	79.4 (長)	12.5 (幅)	2.7 (厚)	_	· <u> </u>		_	-	_
67	南 B	落込み1	木製品	板材	80.7 (長)	16.2 (幅)	3.0 (厚)	_	_	-	-		-
68	南 B	落込み1	木製品	不明	238.0 (長)	6.4 (径)			water	-	-	_	
69	南 B	落込み1	木製品	不明	291.0 (長)	5.7 (径)	_	_	_	_	_	_	
70	南 B	落込み1	木製品	田下駄	39.0 (長)	12.4 (幅)	2.2 (厚)	_			_	_	—
71	南 B	包含層	黒色土器	椀	(14.6)	残3.4		_	(内) N1.5/0 (外) N1.5/0 (断) N1.5/0	密	良好	口縁7%	反転復元
72	南 B	包含層	瓦器	椀	(16.0)	残3.4	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
73	南 B	包含層	瓦器	椀	(13.0)	残4.0		-	(内) 5Y8/0 (外) 5Y8/0 (断) 5Y8/0	密	不良	口縁20%	反転復元
74	南 B	包含層	瓦器	椀	(14.0)	残5.1		_	(内) 5Y8/1 (外) 5Y8/1 (断) 5Y8/1	密	不良	口縁7%	反転復元
75	南 B	包含層	黒色土器	椀		残1.7	高台(7.5)		(内) N3/0 (外) N2/0 (断) N2/0	密	良好	高台15%	反転復元
76	南 B	包含層	瓦器	椀	_	残0.9	高台4.9		(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	高台のみ	反転復元
77	南 B	包含層	瓦器	椀	(13.8)	残4.4		-	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N8/0	やや密	良好	口縁13%	反転復元
78	南 B	包含層	瓦器	椀	(14.4)	残3.8		_	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N8/0	密	良好	口縁13%	反転復元
79	南 B	包含層	瓦器	椀	(13.0)	残4.6	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
80	南 B	包含層	瓦器	椀	(12.0)	残3.6	_	_	(内) N7/0 (外) N1.5/0 (断) N8/0	密	良好	口縁13%	反転復元
81	南 B	包含層	瓦器	椀	(12.0)	残3.4		_	(内) 2.5Y6/3 (外) 2.5Y6/3 (断) 2.5Y6/3	密	不良	口縁25%	反転復元
82	南 B	包含層	瓦器	椀	(12.2)	残3.5		_	(内) 10YR8/1 (外) 10YR8/1 (断) 10YR8/1	密	良好	口縁17%	反転復元
83	南 B	包含層	瓦器	椀	(13.0)	残3.2	_		(内) 7.5Y7/1 (外) 7.5Y7/1 (断) 10Y8/1	密	良好	口縁14%	反転復元
84	南 B	包含層	瓦器	椀	(12.0)	残3.5	_		(内) 5Y3/1 (外) 5Y3/1 (断) 5Y3/1	密	良好	口縁14%	反転復元

表 4 出土遺物観察表 3

遺物 No.	遺跡 地区	遺構・ 層位	種類	器種	口径	法量 器高	()は復 底・高台径	元値その他	色 調	胎土	焼成	残存率	備考
85	南 B	包含層	瓦器	椀	(11.8)	残3.3		-	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
86	南 B	包含層	瓦器	椀	(12.8)	4.1	高台(4.6)		(内) 5Y8/1 (外) 5Y8/1 (外) 5Y8/1 (断) 5Y8/1	密	不良	高台20% 口縁14%	反転復元
87	南 B	包含層	瓦器	椀	(13.6)	残3.7		_	(内) 577/1 (内) 5Y7/1 (外) 5Y7/1 (断) 5Y7/1	密	不良	口縁17%	反転復元
88	南 B	包含層	瓦器	椀	(13.0)	残4.3		_	(内) N5/0 (外) 5Y8/1 (断) 5Y8/1	密	良好	口縁20%	反転復元
89	南 B	包含層	瓦器	椀	(12.4)	残4.5	-	_	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N8/0	密	良好	口縁14%	反転復元
90	南 B	包含層	瓦器	椀	(10.4)	残4.9	高台(5.2)		(内) 5Y3/1 (外) 7.5Y2/1 (断) 5Y8/1	密	良好	口縁11%	反転復元
91	南 · B	包含層	瓦器	椀	(12.0)	残3.0		_	(内) 10YR8/1 (外) 10YR8/1 (断) 10YR8/1	密	不良	口縁10%	反転復元
92	南 B	包含層	瓦器	Ш	(10.2)	残1.9	_	_	(内) 10Y7/1 (外) N7/0 (断) N7/0	密	良好	口縁30%	反転復元
93	南 B	包含層	土師器	Ш	(16.2)	残1.9		dell'e	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁15%	反転復元
94	南 B	包含層	土師器	III.	(14.2)	残2.7	_	_	(内) 10YR6/3 (外) 10YR6/2 (断) 10YR6/3	密	良好	口縁10%	反転復元
95	南 B	包含層	土師器	Ш	(11.8)	残2.4			(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁10%	反転復元
96	南 B	包含層	土師器	Ш	(12.4)	残2.2	_	_	(内) 10YR8/1 (外) 10YR8/1 (断) 10YR8/1	密	良好	口縁16%	反転復元
97	南 B	包含層	上師器	Ш	(10.8)	残1.9	_	_	(内) 5Y8/1 (外) 5Y8/1 (断) 5Y8/1	密	良好	口縁13%	部分反転
98	南 B	包含層	土師器	Ш	(10.2)	残1.9	_	_	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁17%	反転復元
99	南 B	包含層	土師器	1111	(8.0)	残1.0			(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁25%	反転復元
100	南 B	包含層	土師器	Ш	(8.0)	残1.7	_	_	(内) 10YR6/1 (外) 10YR7/2 (断) 10YR7/2	密	良好	口縁40%	反転復元
101	南 B	包含層	土師器	m.	(7.6)	残2.0		-	(内) N7/0 (外) N1.5/0 (断) N8/0	やや密	良好	口縁18%	反転復元
102	南 B	包含層	磁器	青磁碗		残1.2	高台(5.4)		(釉) 7.5Y6/2 (断・露) N8/0	密	堅緻	高台30%	反転復元
103	南 B	包含層	須恵器	擂鉢	(24.0)	残4.3	_		(内) 7.5Y6/1 (外) 7.5Y6/1 (断) 7.5Y6/1	密	良好	口縁10%	反転復元 糸切り痕あり
104	南 B	包含層	須恵器	擂鉢	(22.6)	残4.0	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N3/0	密	良好	口縁10%	反転復元
105	南 B	包含層	須恵器	杯身	(9.6)	残1.3			(内) 10Y7/1 (外) 10Y7/1 (断) 10Y7/1	密やや	良好	底部10%	反転復元
106	南 C	包含層	須恵器	甕	(18.8)	残3.0	_	_	(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N8/0	密やや	良好	口縁13%	反転復元
107	南 C	包含層	須恵器	擂鉢	_	残3.1	底(12.0)		(内) N7/0 (外) N6/0 (断) N7/0	密	良好	底部15%	反転復元
108	南 D	SP65	黒色土器	椀	_	残0.9	高台(6.4)	_	(内) 10YR3/1 (外) 10YR6/3 (断) 10YR3/1	密	良好	高台23%	反転復元
109	南 D	SP104	黒色土器	椀	(13.6)	残3.5		_	(内) 10YR2/1 (外) 5YR4/6 (断) 5YR4/6	やや密	良好	口縁10%	反転復元
110	南 D	SP109	土師質	土錘	_	縦4.4 横1.4	-	穴径4.0	(内) 5Y8/1 (外) 5Y8/1 (断) N6/0	密やや	良好	完形	×
111	南 D	包含層	瓦器	椀	(12.8)	残3.3	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) 5Y8/1	密	良好	口縁8%	反転復元
112	南 D	包含層	瓦器	椀	_	残0.9	高台(6.0)	_	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N8/0	密	不良	高台20%	反転復元

表 5 出土遺物観察表 4

遺物	遺跡	遺構・	種類	器種	T	法量	()は後	元値	<i>E</i> 7. ∋114	114 L	4-4	ret + cho	/## +v.
No.	地区	層位	7里光灯	里了石ధ	口径	器高	底·高台径	その他	色調	胎土	焼成	残存率	備考
113	南 D	包含層	瓦器	椀	-	残1.0	高台(6.0)	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0	密	良好	高台15%	反転復元
114	南 D	包含層	土師器	ш	(8.8)	残1.3	_	_	(内) 5Y8/1 (外) 5Y8/1 (断) 5Y8/1	密	良好	口縁15%	反転復元
115	南 D	包含層	磁器	白磁碗	(14.0)	残2.9	_		(内) 2.5Y8/1 (外) 2.5Y8/1 (断) 2.5Y8/1	密	堅緻	口縁7%	反転復元
116	南 D	包含層	磁器	青磁碗	(14.0)	残4.4	-	_	(釉) 10Y6/2 (断) 10Y7/1	密	堅緻	口縁9%	反転復元
117	南 D	包含層	須恵器	杯身?	-	残1.0	高台(6.6)	_	(内) 10Y7/1 (外) 10Y7/1 (断) 10Y7/1	密	良好	高台12%	反転復元 糸切り痕あり
118	南 D	包含層	須恵器	椀	-	残1.8	高台(5.0)	_	(内) N6/0 (外) N6/0 (断) N6/0	密	良好	高台16%	反転復元 糸切り痕あり
119	南 E	包含層	瓦器	椀	(16.8)	残4.6	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁9%	反転復元
120	南 E	包含層	瓦器	椀	(17.0)	残5.3			(内) 2.5Y7/1 (外) 2.5Y7/1 (断) 2.5Y7/1	密	やや不良	口縁10%	反転復元
121	南 E	包含層	瓦器	椀	(13.0)	残3.8	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0	密	良好	口縁7%	反転復元
122	南 E	包含層	瓦器	椀	(13.0)	残3.7	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0	密	やや不良	口縁10%	反転復元
123	南 E	包含層	瓦器	椀	(11.6)	残4.2	_		(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁6%	反転復元
124	南 E	包含層	瓦器	椀	(10.8)	残2.9	_	_	(内) N7/0 (外) 5Y8/1 (断) N7/0	密	やや不良	口縁13%	反転復元
125	南 E	包含層	瓦器	椀	_	残2.5	高台(5.3)		(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	高台18%	反転復元
126	南 E	包含層	瓦器	椀		残1.3	高台(5.0)	-	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0	密	良好	高台17%	反転復元
127	南 E	包含層	土師器		(7.4)	残1.3	_	_	(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	密	良好	口縁20%	反転復元
128	南 E	包含層	磁器	白磁碗	(16.0)	残3.8	_		(釉) 10Y7/1 (断) 10Y8/1	密	堅緻	口縁10%	反転復元
129	南 E	包含層	磁器	白磁碗	(14.2)	残2.7	noma.	_	(釉) 7.5Y7/2 (断) N7/0	密	堅緻	口縁10%	反転復元
130	南 E	包含層	磁器	白磁碗	(15.0)	残2.8	_	_	(釉) 7.5Y7/2 (断) 7.5Y8/1	密	堅緻	口縁10%	反転復元
131	南 E	包含層	磁器	白磁碗	(15.0)	残3.0	_	_	(釉) 7.5Y7/1 (断・露)7.5Y8/1	密	堅緻	口縁8%	反転復元
132	南 E	包含層	磁器	青磁碗	(15.0)	残4.6	-	_	(釉) 7.5Y6/2 (外·露) 10Y6/1	密	堅緻	口縁13%	反転復元
133	南 E	包含層	須恵器	擂鉢	(24.8)	残4.3	_		(内) N6/0 (外) N6/0 (断) N6/0	やや密	良好	口縁3%	反転復元
134	南 E	包含層	須恵器	擂鉢	(25.6)	残5.0		_	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N4/0	密	良好	口縁12%	反転復元
135	南 E	包含層	瓦器	壷	(4.7)	残3.1		_	(内) N6/0 (外) N6/0 (断) N7/0	密	良好	口縁23%	反転復元
136	南 E	包含層	陶器	天目茶碗	(10.8)	残4.9	-		(釉) 10YR3/1 (外) 10YR5/3 (断・露) 5Y8/1	密	良好	口縁23%	反転復元
137	南 E	SP159	近世陶器	蓋	(14.7)	残1.7		_	(内) 2.5Y8/2 (外) 2.5Y8/2 (断) 2.5Y8/2	密	良好	口縁7%	反転復元
138	南 E	SP159	瓦器	椀	(9.8)	残2.2			(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N8/0	密	やや不良	口縁12%	反転復元
139	南 E	SP159	瓦器	羽釜	(19.2)	残4.0	_	_	(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N7/0	密	不良	口縁8%	反転復元
140	南 F	SK201	瓦器	椀	(14.8)	残2.7			(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0	密	良好	口縁5%	反転復元

表 6 出土遺物観察表 5

遺物	遺跡	遺構・	種類	器種		法量	()は後	[元値	色 調	胎土	焼成	建方束	准本
No.	地区	層位	7年大只	カロ1里	口径	器高	底·高台径	その他	色 調 (内) N3/0	加工	焼成	残存率	備考
141	南 F	包含層	瓦器	椀	(13.6)	残3.4	_	_	(外) N3/0 (断) N7/0	密	良好	口縁5%	反転復元
142	南 F	包含層	瓦器	椀	(11.6)	残2.4	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N3/0	密	良好	口縁10%	反転復元
143	南 F	包含層	瓦器	椀	(10.0)	残2.7		_	(内) 10Y7/1 (外) 10Y7/1 (断) N8/0	密	良好	口縁13%	反転復元
144	南 F	包含層	瓦器	椀	(12.8)	残3.3	_		(内) N4/0 (外) N4/0 (断) N6/0	密	良好	口縁15%	反転復元
145	南 F	包含層	瓦器	椀	(12.4)	残2.5	_		(内) 2.5Y7/2 (外) 2.5Y7/2 (断) 2.5Y7/2	やや密	良好	口縁9%	反転復元
146	南 F	包含層	瓦器	椀		残1.9	高台(5.6)	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	高台12%	反転復元
147	南 F	包含層	土師器	INL	_	残2.3	_		(内) 7.5YR7/3 (外) 7.5YR7/3 (断) 2.5Y8/3	密	良好	口縁18%	反転復元
148	南 F	包含層	磁器	青磁碗	_	残1.0	高台(6.1)		(釉) 7.5GY6/1 (露) 7.5YR6/2 (断) 5GY8/1	密	堅緻	高台55%	反転復元
149	南 F	包含層	須恵器	椀	(11.2)	残3.5	_	_	(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N7/0	密	良好	口縁10%	反転復元
150	南 F	包含層	須恵器	椀		残0.9	高台(6.6)	_	(内) N6/0 (外) N6/0 (断) N6/0	密	良好	高台25%	反転復元
151	南 F	包含層	須恵器	椀	_	残1.1	高台(5.4)	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N3/0	密	良好	高台35%	反転復元
152	南 F	包含層	須恵器	杯身	*******	残3.1	高台(11.3)	_	(内) N6/0 (外) N6/0 (断) N6/0	密	良好	高台11%	反転復元
153	南 F	包含層	須恵器	擂鉢	(26.0)	残8.0	-	_	(内) N7/0 (外) N6/0 (断) N7/0	密	良好	口縁8%	反転復元
154	南 F	包含層	緑釉陶器	椀	(10.8)	残3.2	_		(釉)深緑 (断) N4/0	密	良好	口縁7%	反転復元
155	南 F	包含層	緑釉陶器	椀?		残1.8	VAMAA	-	(釉)深緑 (断) 2.5Y8/1	密	やや不良・		_
156	北 B	SP14	土師器	Ш	(8.6)	0.9	_	_	(内) 2.5Y7/3 (外) 2.5Y7/3 (断) 2.5Y7/3	密	良好	10%	反転復元
157	北 B	包含層	磁器	青磁皿	(10.1)	残2.45	_	-	(内) 2.5GY7/1 (外) 2.5GY6/1 (断) 7.5Y8/1	密	良好	口縁20%	反転復元
158	北 B	包含層	陶器	甕	-	残7.45	底(13.6)	_	(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N7/0	密	良好	底部20%	反転復元
159	北 C	SX5	瓦器	椀	(12.4)	残3.9	_		(内) N4/0 (外) N4/0 (断) 5Y8/1	密	良好	口縁25%	反転復元
160	北 C	SX5	瓦器	椀	(13.0)	残4.2			(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N6/0	密	良好	口縁15%	反転復元
161	北 C	SX5	瓦器	椀	(11.8)	残3.8		_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) 10Y8/1	密	良好	18%	反転復元
162	北 C	SX5	瓦器	椀	(14.5)	残3.5	_	record	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) N8/0	密	良好	口縁20%	反転復元
163	北 C	SX5	瓦器	椀	(14.0)	2.9		_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) N8/0	密	良好	口縁15%	反転復元
164	北 C	SX5	瓦器	椀	(13.0)	残3.6	_	_	(内) 2.5Y8/2 (外) 2.5Y8/2 (断) 2.5Y8/2	密	不良	口縁20%	反転復元
165	北 C	SX5	瓦器	椀	(14.4)	残3.3	_	_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) N8/0	密	良好	口縁15%	反転復元
166	北 C	SK50	磁器	青磁皿	(8.6)	2.9	5.5	_	(釉) 5Y6/3 (断·露)5Y8/2	密	良好	60%	反転復元
167	北 C	SK50	磁器	青磁壷		残10.8	5.6 (頚部径)	_	(釉) 5Y6/3 (断·露)5Y8/2	密	良好	口縁70%	一部反転復元
168	北 C	SD106	瓦器	椀	(12.9)	残4.4		-	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) 5Y8/2	密	良好	口縁20%	反転復元

表 7 出土遺物観察表 6

遺物	遺跡	遺構・	種類	器種		法量	()は復	元値	色 調	胎土	焼成	残存率	備考
No.	地区	層位	1里共	ADT生	口径	器高	底・高台径	その他		лн ⊥	MEDA	7X/T+	C. FILM
169	北 C	SD106	瓦器	椀	(14.2)	4.6	高(4.2)	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) 10Y7/1	密	良好	31%	反転復元
170	北 C	包含層	瓦器	椀	(14.6)	残3.7	-	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁12%	反転復元
171	北 C	包含層	瓦器	椀	(15.0)	残4.3		_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
172	北 C	包含層	瓦器	椀	(15.6)	残4.9		_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) 5Y8/1	密	やや不良	31%	反転復元
173	北 C	包含層	瓦器	椀	(14.8)	残3.6		_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N4/0	密	良好	口縁20%	反転復元
174	北C	包含層	瓦器	椀	(15.6)	残3.35		_	(内) 7.5Y3/1 (外) 7.5Y3/1 (断) 7.5Y8/1	密	良好	口縁10%	反転復元
175	北 C	包含層	瓦器	椀	(13.2)	4.05	高台(5.6)	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) 10Y8/1	密	良好	55%	一部反転復元
176	北 C	包含層	瓦器	椀	(13.8)	残3.2		_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁13%	反転復元
177	北 C	包含層	瓦器	椀	(13.4)	残4.2	_	_	(内) 5YR7/4 (外) 5Y4/1 (断) 7.5YR7/3	密	不良	口縁10%	反転復元
178	北 C	包含層	瓦器	椀	(15.4)	残3.8	_	_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
179	北 C	包含層	瓦器	椀	(14.0)	残2.8	_	_	(内) N2/0 (外) N2/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
180	北 C	包含層	瓦器	椀	(12.4)	残2.4	_	_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) 5Y8/1	密	やや不良	口縁10%	反転復元
181	北 C	包含層	瓦器	椀	(11.0)	残3.8	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N7/0	密	良好	口縁10%	反転復元
182	北 C	包含層	瓦器	椀	_	残1.4	高台(6.4)	-	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) 5Y8/2	密	やや不良	高台40%	反転復元
183	北 C	包含層	瓦器	椀	-	残1.9	高台(4.5)	_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) 7.5Y8/1	密	良好	高台30%	反転復元
184	北 C	包含層	瓦質	羽釜	(18.0)	残5.4	_	-	(内) 7.5Y4/1 (外) 7.5Y4/1 (断) 7.5Y4/1	密タタ	やや不良	口縁10%	反転復元
185	北 C	包含層	磁器	白磁碗	(16.6)	残3.1	-	· –	(内) 7.5Y7/1 (外) 7.5Y7/1 (断) 7.5Y8/1	密	良好	口縁10%	反転復元
186	北 C	包含層	土製品	土錘	_	_	_	長3.25 幅1.05	(内) 10YR7/2 (外) 5YR6/4	密	良好	完形	L ectors
187	北 E	SP93	瓦器	椀	(16.0)	5.9	6.6		(内) N3/0 (外) N3/0	密	やや不良	40%	一部反転復元
188	北 E	SP20	瓦器	椀	(14.8)	5.5	5.9		(内) N4/0 (外) 2.5Y3/1	密	良好	20%	反転復元
189	北 E	SD70	瓦器	椀	(15.0)	残4.9	_		(内) N4/0 (外) N4/0 (断) N8/0	密	良好	口縁30%	反転復元
190	北 H	SP104	瓦器	椀	_	残2.2	(6.4)		(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N8/0	密	良好	底部20%	反転復元
191	北 E	SP66	土師器	ΠL	(7.4)	1.45	advanta	_	(内) 2.5Y8/1 (外) 2.5Y8/1 (断) 2.5Y8/1	密	良好	25%	反転復元
192	北 E	SP75	土師器	Ш	(8.3)	残1.3		_	(内) 5YR7/4 (外) 7.5YR8/4 (断) 5YR7/4	密	良好	口縁12%	反転復元
193	北 E	包含層	瓦器	椀	(15.4)	残4.6			(内) N2/0 (外) N2/0 (断) 2.5Y8/3	密	良好	口縁18%	反転復元
194	北 E	包含層	瓦器	椀	(15.8)	残2.8	_	_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) 5Y8/2	密	良好	口縁12%	反転復元
195	北 E	包含層	瓦器	椀	(7.9)	残3.9		_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) N8/0	密	良好	口縁15%	反転復元
196	北 E	包含層	瓦器	椀	(11.0)	残3.0	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) 2.5Y8/4	密	良好	口縁14%	反転復元

表 8 出土遺物観察表 7

遺物	遺跡	遺構・	DF 495	PA RR		法量	()は復	元値	/4 ≅(H	0/5 1.	Jatr 42	rk ≠= ₩	/#= #z
No.	地区	層位	種類	器種	口径	器高	底·高台径	その他	色調	胎土	焼成	残存率	備考
197	北 E	包含層	瓦器	椀	_	残2.3	高台(5.7)	_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) 5Y7/1	密	良好	高台25%	反転復元
198	北 E	包含層	瓦器	椀	_	残1.35	高台(6.6)	_	(内) N4/0 (外) N4/0 (断) N8/0	密	良好	高台25%	反転復元
199	北 E	包含層	瓦器	椀		残1.5	高台(5.1)		(内) N3/0 (外) N3/0 (断) 7.5Y8/1	密	良好	高台49%	反転復元
200	北 E	包含層	瓦器	椀	_	残1.3	高台(5.4)	-	(内) N2/0 (外) N2/0 (断) N8/0	密	良好	高台24%	反転復元
201	北 E	包含層	瓦器	IIIL	(9.8)	1.4	底(7.6)		(内) 10YR3/1 (外) 10YR4/1 (断) 2.5Y8/1	密	良好	15%	反転復元
202	北 E	包含層	瓦器	Ш	(10.6)	残1.0	_	_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁13%	反転復元
203	北 E	包含層	土師器	Ш	(9.0)	1.1		_	(内) 5YR7/6 (外) 5YR7/6 (断) 5YR7/6	密	良好	口縁11%	反転復元
204	北 E	包含層	磁器	青磁皿	(8.4)	残2.9	_		(内) 7.5Y6/2 (外) 7.5Y6/2 (断) 7.5Y8/1	密	良好	口縁10%	反転復元
205	北 E	包含層	磁器	青磁碗	(16.3)	残3.4	_	_	(内)7.5GY6.5/2 (外)7.5GY6.5/2 (断)1Y7.5/2	緻密	良好	口縁13%	反転復元
206	北 E	包含層	磁器	青磁碗	(13.6)	残2.8	_	_	(内) 7.5Y6/2 (外) 7.5Y6/2 (断) 7.5Y8/1	密	良好	口縁10%	反転復元
207	北 E	包含層	磁器	白磁碗	(15.8)	残3.4	_	_	(内) 7Y8/0.5 (外) 7Y8/0.5 (断) 7Y8/0.5	緻密	良好	口縁22%	反転復元
208	北 E	包含層	磁器	白磁碗	(17.6)	残2.9	_	_	(内) 6.5Y7/2 (外) 6.5Y7/2 (断) 7Y8/2	緻密	良好	口縁10%	反転復元
209	北臣	包含層	須恵器	杯	-	残2.4	高台(11.1)	_	(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N7/0	密	良好	高台21%	反転復元
210	北 E	包含層	須恵器	壷	_	残 2.3	底(10.2)	-	(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N7/0	密	良好	底部11%	反転復元
211	北 I	SD68	瓦器	椀	(12.4)	残3.4	_		(内) 2.5Y2/1 (外) 2.5Y7/1 (断) 2.5Y8/1	密	良好	口縁11%	反転復元
212	北 I	SD68	瓦器	椀	_	残3.0	高台(4.6)	_	(内) 10YR8/2 (外) 10YR8/2 (断) 5YR7/6	密	やや不良	高台16%	反転復元
213	北 I	SD68	須恵器	杯蓋	(14.6)	残1.3	-		(内) N7/0 (外) N7/0 (断) N4/0	密	良好	口縁8%	反転復元
214	北 I	SD68	須恵器	杯身	_	残1.2	_	_	(内) 10Y7/1 (外) 10Y7/1 (断) 10Y7/1	密	良好		反転復元
215	北 I	· SK10	瓦器	椀	(12.2)	4.0			(内) 7.5Y2/1 (外) 7.5Y2/1 (断) 7.5Y8/1	密	良好	口縁12%	反転復元
216	北 I	SD85	土師器	椀		残0.8	底(6.0)		(内) 2.5Y8/2 (外) 7.5YR8/4 (断) 7.5YR8/4	密	良好	底部17%	反転復元
217	北 I	包含層	瓦器	椀	(13.2)	残3.9		_	(内) N3/0 (外) N3/0 (断) N8/0	密	良好	口縁10%	反転復元
218	北 I	包含層	瓦器	椀	(12.0)	残3.6	_	_	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) 7.5Y8/1	密	良好	口縁14%	反転復元
219	北 I	包含層	須恵器	長頚壷		残5.4	_	_	(内) N5/0 (外) N5/0 (断) N5/0	密	良好	-	一部反転復元
220	南 F	包含層	黒色土器	椀		残2.4	_	_	(内) 10YR3/1 (外) 10YR3/1 (断) 10YR3/1	密	良好	_	-
221	北 C	包含層	瓦器	椀	_	残1.7	(6.0)	eronon.	(内) N6/0 (外) N4/0 (断) N5/0	密	良好	底部20%	反転復元

表 9 出土遺物観察表 8

報告書抄録

ふりがな	たのういせる	きぐんは	っくつち	っょうさか	ぶいよう・	Ш								
書 名	田能遺跡群多	発掘調査	概要・Ⅲ											
副書名	農地還元利流	舌用事業	「樫田地	区」に伴	羊う発掘調									
巻次														
シリーズ名														
シリーズ番号														
編著者名	奥 和之													
編集 機関	大阪府教育	委員会	文化財	保護課				·						
所 在 地	〒540-8571	大阪府	大阪市中	央区大手	章前2丁目	TEL 06-6941-	-0351							
発行年月日	2002年3月													
ふりがな	ふりがな ラニナール		一片	。北緯	東経。, / /	調査期間	面積	調査原因						
所収遺跡名	所在地		遺跡番号				(m²)							
たのうみなみいせき 田能南遺跡	たかつきしおおあざ高槻市大字	27207	179	135° 35′ 42″	34° 57′ 19″	2000年9月~ 2002年3月	2,211	府営農地還元 和活用事業						
たのうきたいせき 田能北遺跡	たのうちない 田能地内	21201	178	135° 35′ 30″	34° 57′ 03″	2001年6月~ 同年12月	2,950	(樫田地区)						
所収遺跡名	種 別	主	な時代	主な	で遺構	主な遺物		特記事項						
田能南遺跡	集落跡	中	·時代 世 時代	建築材の棚	勿跡 O集積場 列 쁔 坑	黑色土器 緑釉器 瓦器 上前器 上前磁 白磁 有感 大製品								
田能北遺跡 集落跡 平安時代 中 世 江戸時代 潜 土坑 黒色土器 緑釉陶器 瓦器 土師器 青磁 白磁 須恵器														

义

版



調査地区全景 (南西より)

図版 1 田能南遺跡



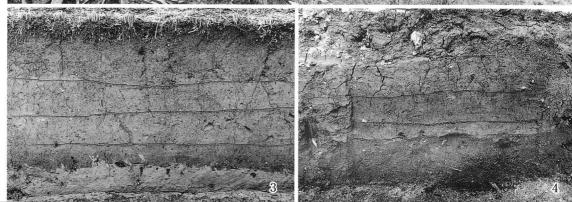
1. A地区全景

南より



2. B地区 遺物出土状況

東より



- 3. A地区基本断面(2)
- 4. B地区基本断面

図版 2 田能南遺跡

1. 落込み1 遺物出土状況

北より





2. 落込み1 遺物出土状況 (細部) 東より



3. B地区全景

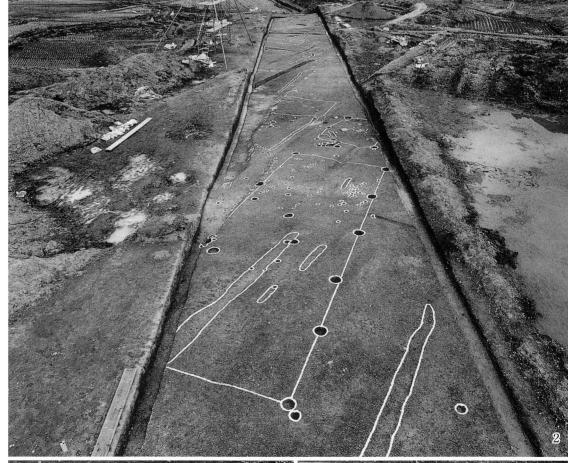
西より

図版 3 田能南遺跡



1. D地区全景

東より



2. D地区全景

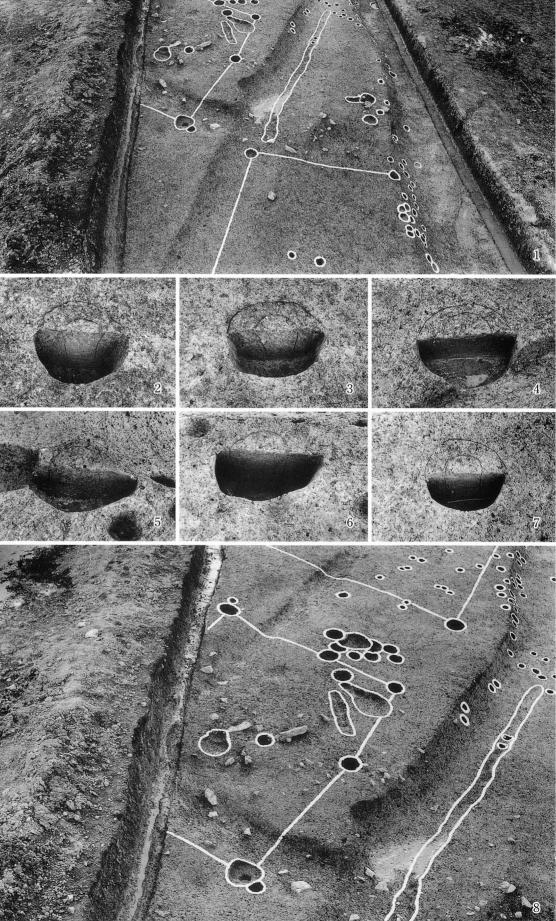
西より

- 3. D地区基本断面(4)
- 4. D地区基本断面(1)

図版4 田能南遺跡

1. 建物1・2 東より

- 2. 建物 1 SP10 3. 建物 1 SP12
- 4. 建物 1 SP13
- 5. 建物 1 SP62
- 6. 建物 1 SP64
- 7. 建物 1 SP65



8. 建物 2

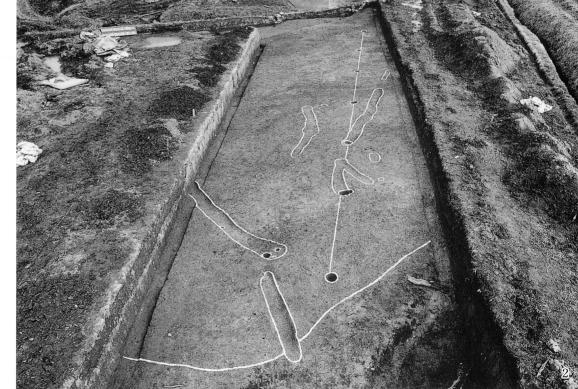
東より

図版 5 田能南遺跡



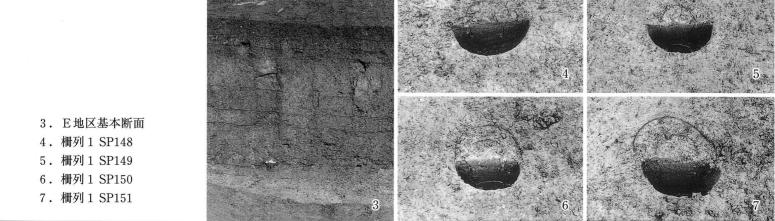
1. E地区全景

西より



2. 柵列1

西より



図版 6 田能南遺跡



1. F地区全景

南より



2. 土坑 2·3

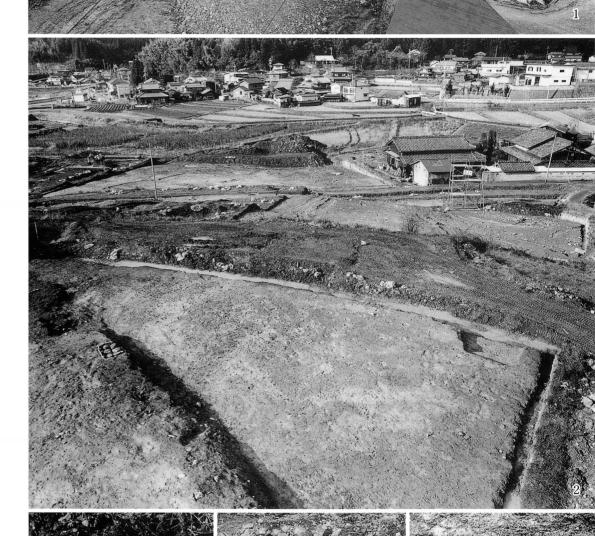
南より

- 3. F地区基本断面(1)
- 4. F地区基本断面(4)

図版 7 田能北遺跡

1. 全景

南東より



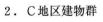
2. B·C·D·I 地区全景 東より

- 3. C地区基本断面 4. E地区基本断面 5. I地区基本断面

図版 8 田能北遺跡

1. C地区全景

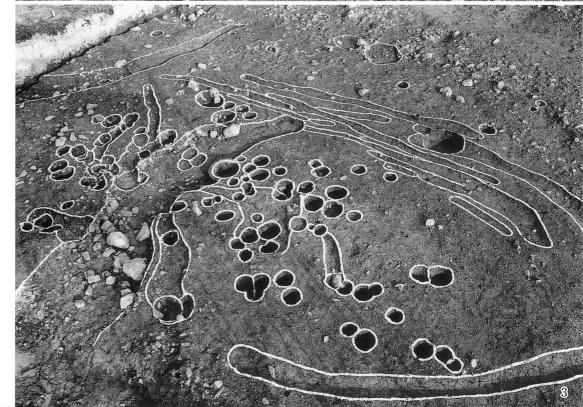
南より



北より







3. C地区建物群

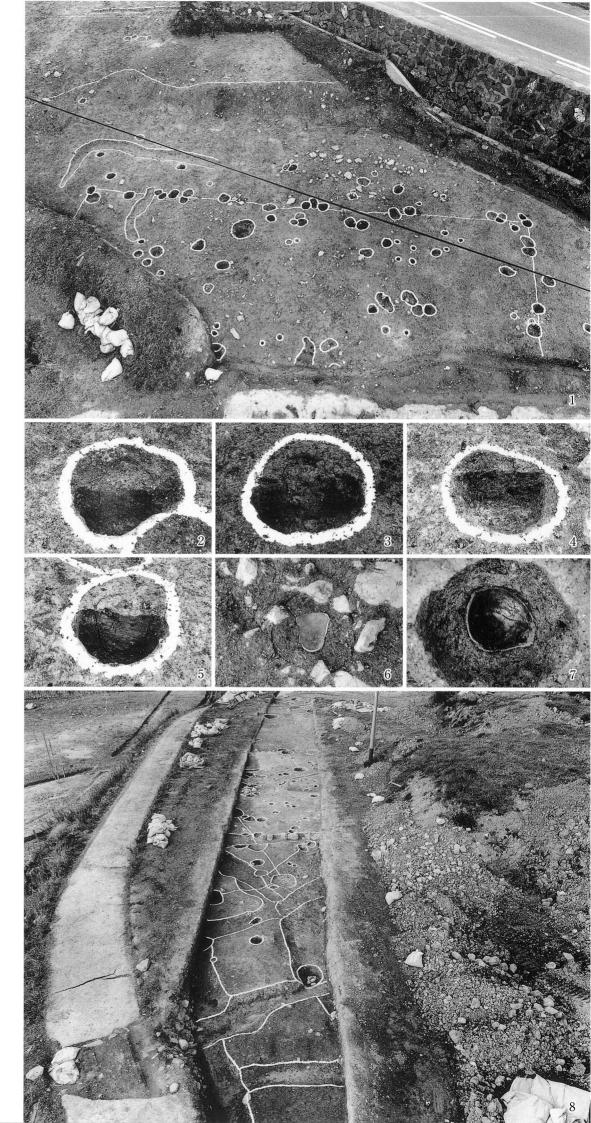
南西より

図版 9 田能北遺跡

1. E地区建物 1

南より

- 2. 建物 1 SP10
- 3. 建物 1 SP25
- 4. 建物 1 SP68
- 5. 建物 1 SP92
- 6. SP20遺物出土状況
- 7. SP93遺物出土状況



図版10 田能北遺跡



1. 建物3

北東より

- 2. 建物 3 SP54
- 3. 建物 3 SP62
- 4. 建物 3 SP69



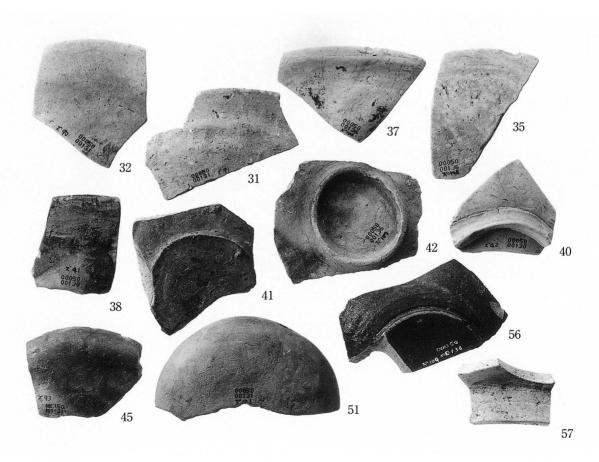
5. 建物 2

東より

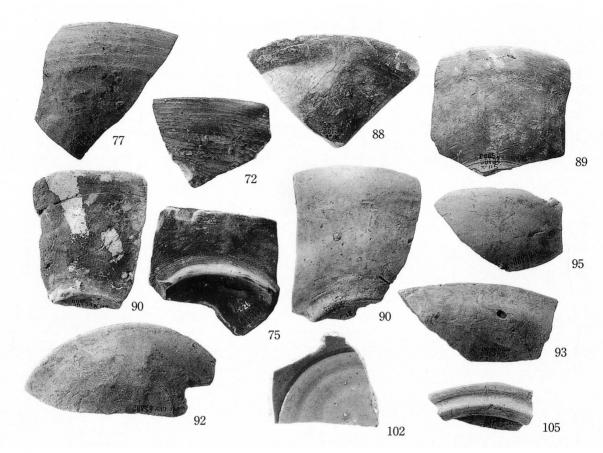
- 6. 建物 2 SP26
- 7. 建物 2 SP32
- 8. 建物 2 SP87



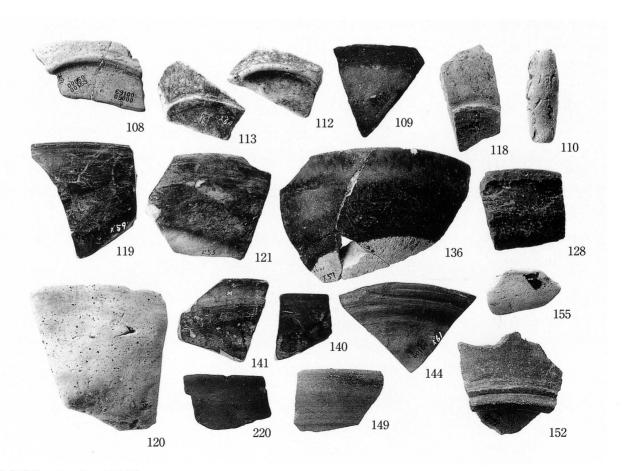
田能南遺跡 A地区



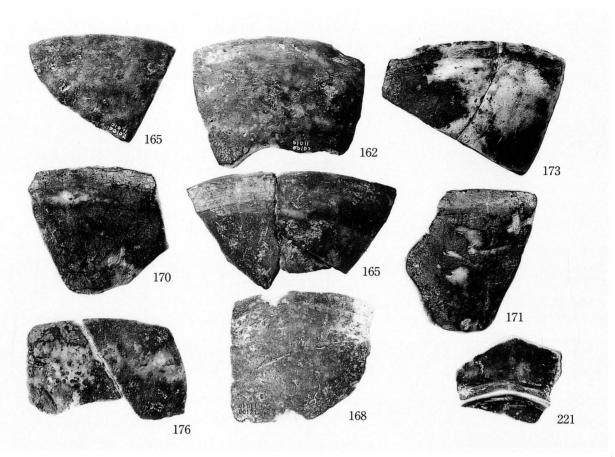
田能南遺跡 B地区落込み1



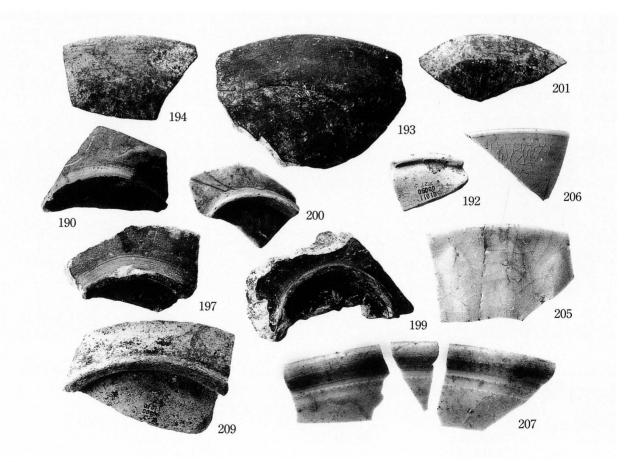
田能南遺跡 B地区包含層



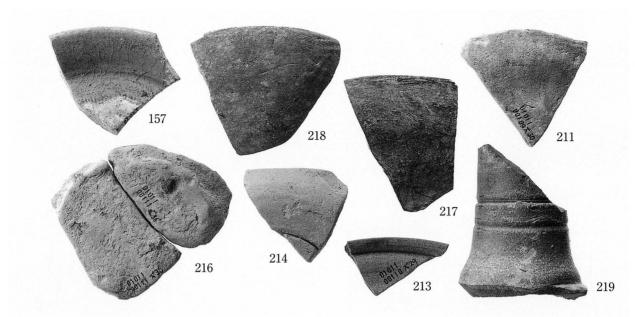
田能南遺跡 D·E·F地区



田能北遺跡 С地区



田能北遺跡 E・H地区



田能北遺跡 B・I地区



田能遺跡群発掘調査概要•Ⅲ

ー農地還元利活用事業「樫田地区」に伴う発掘調査ー

発 行 大阪府教育委員会

〒540-8571

大阪市中央区大手前2丁目

Tel. 06-6941-0351

発行日 2002年3月29日

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

大阪市東成区深江南2-6-8

Tel. 06-6976-8761

.